週刊 YEAR BOOK

1917 大正6年 日録20世紀

9|15
平成10年9月15日発行
（毎週1回火曜日発行）
第2巻第34号 通巻77号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

Uボートと死闘36回！ 日本海軍、地中海に遠征
ドイツ軍「H21号」、女スパイ・マタハリ銃殺！
レーニン、亡命先から「封印列車」でロシアへ！

「目玉の松ちゃん」人気絶頂！

「豪傑児雷也」「猿飛佐助」……忍術映画が大ヒット
“主演一〇〇〇本”の邦画スター第一号
「目玉の松ちゃん」人気絶頂！

▲「児雷也」に扮した尾上松之助。大正3年に公開されるや、忍術映画の一大ブームを巻き起こした。　中村房吉提供

「時の首相の名は知らなくても、目玉の松ちゃんの名を知らぬものはない」とまで言われた尾上松之助。豪傑児雷也や猿飛佐助に扮し、忍術を使って画面からドロンドロンと消え、悪漢をなぎ倒す松之助の映画は、日本中を熱狂させた。当時の子どもたちにとって、松之助はまさに憧れのスーパーヒーローだったのだ。

少年たちを驚喜させた映画的トリックの世界

巨大なクモの怪物が忍者に襲いかかってきた。放射線状に広がる白い糸を吐き出すクモに対し、忍者は果敢に立ち向かう。長い息詰まるような苦闘のすえ、忍者はこの怪物を屠り去る……。

スクリーンの上で繰り広げられる大活劇に、子どもたちは木製の椅子の固さも忘れて熱中した。大立ち回りのすえに敵を倒した忍者は、観客に向かって大きく目をひんむき、はったとにらんでアゴをしゃくり“見得”を切る。その動作に合わせて拍子木を打つ弁士。甲高い子どもたちの歓声と拍手が沸き上がった。大正六年の映画館は、全国どこでも、この忍者俳優の人気で沸き返っていた。

◎表紙　“主演1000本記念”と銘うった2時間半の超大作、「荒木又右衛門」の尾上松之助。大正14年11月封切。　中村房吉提供

▲大正15年3月封切「実録忠臣蔵」の討ち入りシーン。大石内蔵助役に尾上松之助。共演は山本嘉一、河部五郎ほか数十人という大作だった。

◀「実録忠臣蔵」のパンフレット。松之助が9月に亡くなると、追善大興行と銘うち、各地で大入り満員を続けた。

▶浅草にあった日活直営館・遊楽館のチラシ。天通自在の神槌を操る武太夫（松之助）が、刑部狸相手に大暴れする。

マツダ映画社提供

▼松之助映画の大入袋。ポストカードに仕立てたスチール写真数枚が入っており、ファンレター用にも使われた。

▼大正7年発行の「新版活動写真双六」。忍術映画は、子どもたちに絶大な人気を誇った。

「豪傑児雷也」「猿飛佐助」……忍術映画が大ヒット
"主演1000本"の邦画スター第1号

「目玉の松ちゃん」人気絶頂!

◀遺作「侠骨三日月」の富士ロケーションにて。大正15年4月の撮影中、松之助は心臓病で倒れる。 中村房吉提供(見開き全点)

◀松之助(左)を発掘した牧野省三監督と。明治四二年頃。

忍者を演じたのは、尾上松之助(四二)。大正三年の映画「豪傑児雷也」で"忍術もの"という新ジャンルを開拓した松之助は、またたく間に観客の心をとらえ、今や人気の絶頂期を迎えていた。松之助の忍術映画やチャンバラ映画は国民の最大の娯楽であり、とりわけ少年たちの心を虜にした。人々は彼を「目玉の松ちゃん」と呼び、少年たちにとっては憧れのスーパースターだった。

松之助映画が少年の心を引きつけた理由は、"勧善懲悪"の世界観と、そこに繰り広げられる映画的トリックにあった。スクリーンの中の松之助は常に正義の士であり、時に豪傑児雷也となり、時には猿飛佐助となって悪漢や怪物らと闘った。そして松之助が目をひんむいて両指を組み合わせて印を結ぶと、その姿はたちまち画面から消え失せる。かと思うと、また忽然と姿を現し、ガマガエルや鷲に変身したり、空を飛んだりといったスペクタクルを見せた。その雄姿に少年らは目をみはり、人気はうなぎのぼりの勢いだった。

それは逆回転撮影や、コマ落としなど、今から思えば実に簡単な"特撮"だった。

子ども時代に松之助映画を見て育った評論家の岩崎昶は、こう回想している。

「(松之助映画では)忍術が現実に見られるのである。それを見るために五銭や十銭はけっして高くはない。人びとは松之助を見に集まった。松之助は何も出来ない民衆の夢の代理人であり、また日本中の子どものアイドルとなった。彼のとおりやれば何でも可能であった」(『映画が若かったとき』平凡社)

当時の映画館の子ども入場料は、タバコ一箱(ゴールデンバットは六銭だった)程度だったのである。

全国各地の小学生たちの間では、"松之助ゴッコ"が流行した。松之助と同じように目をむき"見得"を切っては、両手で印を結び、高い場所から飛び降りたり、押し入れにもぐって姿を隠したりした。松之助のまねをして、高い場所から飛び降りて足を骨折した子どもも続出した。

松之助映画は明治四二年から大正一五年までに約一〇〇〇本も作られ、全盛期には年間八〇本以上に達した。「時の首相の名を知らなくとも、目玉の松ちゃんを知らないものはない」と巷で言われるほどの人気だったが、観客動員記録や、興行成績の正確な記録は残っていない。

だが、デビュー当時の松之助の月給二〇円が、大正五年には四〇〇円になり、一二年契約の更新ごとに三万円のボーナスが支払われた。まさに松之助は、日本映画界初のスターだったのだ。

◀ファンの要望にこたえるため、松之助は全国の上映館を挨拶まわりに歩いた。大正一四年封切の「落花の舞」の絵看板が見える。

松之助人気を演出した"名伯楽"牧野省三監督

尾上松之助(本名・中村鶴三)は、明治八年、岡山市に生まれた。子どもの頃から芝居が好きで、六歳で初舞台を踏み、九歳の頃には舞台でさっそうとトンボを切っていた。そして一五歳で旅役者の一座に加わり、明治三〇年代初めには、岡山でかなりの人気を得ていた。すでに舞台で目をギョロリとむいて"見得"を切るポーズは評判で、客席から「目玉」「目玉」と声がかかった。

松之助を映画界に引き抜いたのは、京都・千本座の座主で映画監督の牧野省三だった。牧野は、旅の途中で立ち寄った岡山で、松之助の旅芝居「狐忠信」を見て、直観的にひらめいた。「この目玉の大きい役者は動きがやたらと活発だ。映画に向いている」と。そして、松之助をスカウトして、デビュー作「碁盤忠信」を撮った。明治四二年のことである。これは、源義経の家来である佐藤忠信が、重い碁盤を振りまわして敵をたたきのめすという豪傑ぶりを描いた作品。以降、牧野は松之助映画を次々と撮影し、松之助人気は爆発的に高まっていったのである。

子どもの頃は松之助映画にあこがれてチャンバラゴッコもしたという、脚本家で映画監督の新藤兼人氏はこう振り返る。

「私が最初に見たのは『豪傑児雷也』。松之助が大蛇やナメクジと立ち回りをする、今思えば他愛のない話なんですが、子どもの私には非常に強烈で面白かった。松之助映画には少年心をくすぐる要素があった。ただ松之助を語る際に忘れてならないのは、牧野省三監督のこと。"日本映画の父"と呼ばれる彼が、松之助をみいださなければ、松之助人気もなかった。つまり松之助は、牧野監督という名プロデューサーと出会えたことで大きく開花できたわけです」

牧野監督は松之助映画のほとんどを監督したが、後に仲たがいをして手をひいた。そして松之助は一世を風靡した後、映画撮影のなかばに心筋梗塞で倒れ、大正一五年九月一一日、死去した。まだ五一歳の若さだった。葬儀には五万人もの会葬者が訪れたという。

松之助映画は、今でも月に一度開かれている「無声映画上映会」で、しばしば上映されている。

「目玉の松ちゃん」百変化!

松之助映画のほとんどはシナリオがなかったという。なにしろ、多い時には年間80本も製作されたのだから、物理的にもシナリオを準備する時間がなかったのだろう。撮影当日に、牧野省三監督が講談本を持って現れ、その場でキャスティングが決められ、脚色がほどこされていくなどという乱暴なやり方も日常茶飯事だった。しかも、同じ日に3本、4本が並行して撮影されたことすらあった。

題材も、「松ちゃん」が正義の味方であれば何でもござれ。歌舞伎の筋書きは最も多く流用された。さらに講談、立川文庫、町の芝居小屋の演目まで、ジャンルを問わず手当たり次第撮影されていた。「猿飛佐助」などの忍者ものは、単純で初歩的なトリック撮影が大いに受けた。そのほか、「鞍馬天狗」「新撰組」「忠臣蔵」「八犬伝」「荒木又右衛門」と、松之助はあらゆる役柄を演じた。時には1本の映画で三つの役柄を演じ分けたり、女形に扮したことすらあった。なんともアナーキーな撮影現場だったのである。

▲「春日局」。女形のほか、一人二役も演じた。

▲源平時代の豪傑伝に取材した「熊谷蓮生坊」。

▲当たり役のひとつ、「中山(堀部)安兵衛」。

▲「鼠小僧次郎吉」。なじみの役柄のひとつ。

▶松之助一行のロケは大群衆にとりまかれることもしばしばで、時には野外劇も催した。

初の共同作戦でドイツUボートと"死闘"三六回
第一次大戦下、赫々たる戦果をあげた
日本海軍、地中海遠征！

▲大正6年1月、地中海に出撃前の巡洋艦「明石」と乗員。「明石」は大正3年以来、青島攻略、インド洋の作戦でも活躍した。 三笠保存会提供

第一次世界大戦中の大正六年二月、世界屈指の海軍国になっていた日本は連合国の要請に基づき、欧州の地中海に遠征。世界最強のドイツ潜水艦隊と闘った。当時、極秘に行われたこの海外派兵は、日本の軍隊が外国と共同作戦をとった初の試み。この時の活躍で、日本海軍は英国王やベルギー国王などから、「地中海の守護神」との賞賛を受けたのだった。

英仏の密約で極秘に地中海へ派兵を敢行

大正六年六月一一日の午後一時三二分、日本海軍の駆逐艦「榊」と「松」は、外国船護衛任務の基地・マルタ軍港に向かうため、敵国ドイツの潜水艦、Uボートの奇襲が待ちかまえる地中海を、一八ノットでジグザグ航行していた。

「左舷艦首（艦の左前方）約三〇〇〇メートルにあやしきものが見えます」

「榊」の瀬戸一等水兵が、海上にUボートの黒い潜望鏡を発見し、叫んだ。緊張した乗員らが戦闘配置についた直後、「左舷に敵潜水艦！」——見張り員の絶叫に、海軍中佐・上原太一艦長（三七）は「面舵一杯！」と命令するが、時すでに遅く、Uボートから発射された魚雷はまっしぐらに「榊」へ突進していた。「しまった！」という上原艦長の叫びを最後に、魚雷が「榊」前部の火薬庫に命中する。

「海軍大尉・庄司彌一は後方に吹き飛ばされて重傷し、機関中佐・竹垣純信は睾丸を粉砕され、背骨を砕かれ、電信室は肉塊乱れ散り、鮮血流れ海水ために紅を呈した」（中島武『海の旗風』）

「榊」から約一〇〇〇メートル離れていた「松」は、敵艦の第二次攻撃を制圧するため、Uボートの航跡に爆雷を連続投下。約二〇〇メートル後方で敵艦の爆発音が響いた。

すぐに、味方の英国駆逐艦「リップル」が駆けつけたが、「榊」は艦体の三分の一が粉砕。犠牲者は、上原艦長ほか士官一人、准士官二人、下士官二八人を含めて五九人にものぼった。

一般にはあまり知られていないが、これは日本海軍とドイツ潜水艦が、第一次世界大戦中に地中海で繰り広げた三六回にわたる死闘の一場面である。

天皇から日本海軍に地中海出動命令が下されたのは、大正六年二月六日。第一次世界大戦（連合国側は英仏露が中心の二七ヵ国、同盟国側がドイツを主体とする四ヵ国）の最中だった。

先に日本は、日英同盟を遵守する名目で大正三年八月二三日、ドイツに宣戦。山東省青島にある要塞攻略やドイツ領南洋諸島の占領といった太平洋からのドイツ駆逐作戦で、成功をおさめていた。

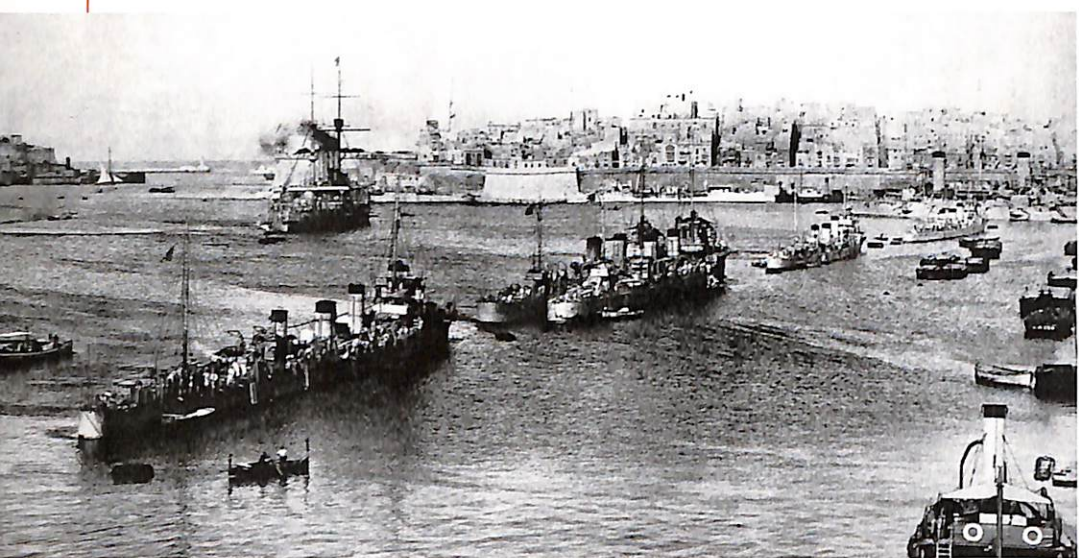
「地中海遠征」はいわば、ドイツ軍を駆逐する第二段の作戦。新兵器として潜水艦を開発したドイツが、無差別船舶攻撃で地中海を航行する商船・兵器輸送船を次々と撃沈（大正六年後半だけで二五六隻）したため、生命線を断たれた英国に海上交通保護を要請されての派兵だった。

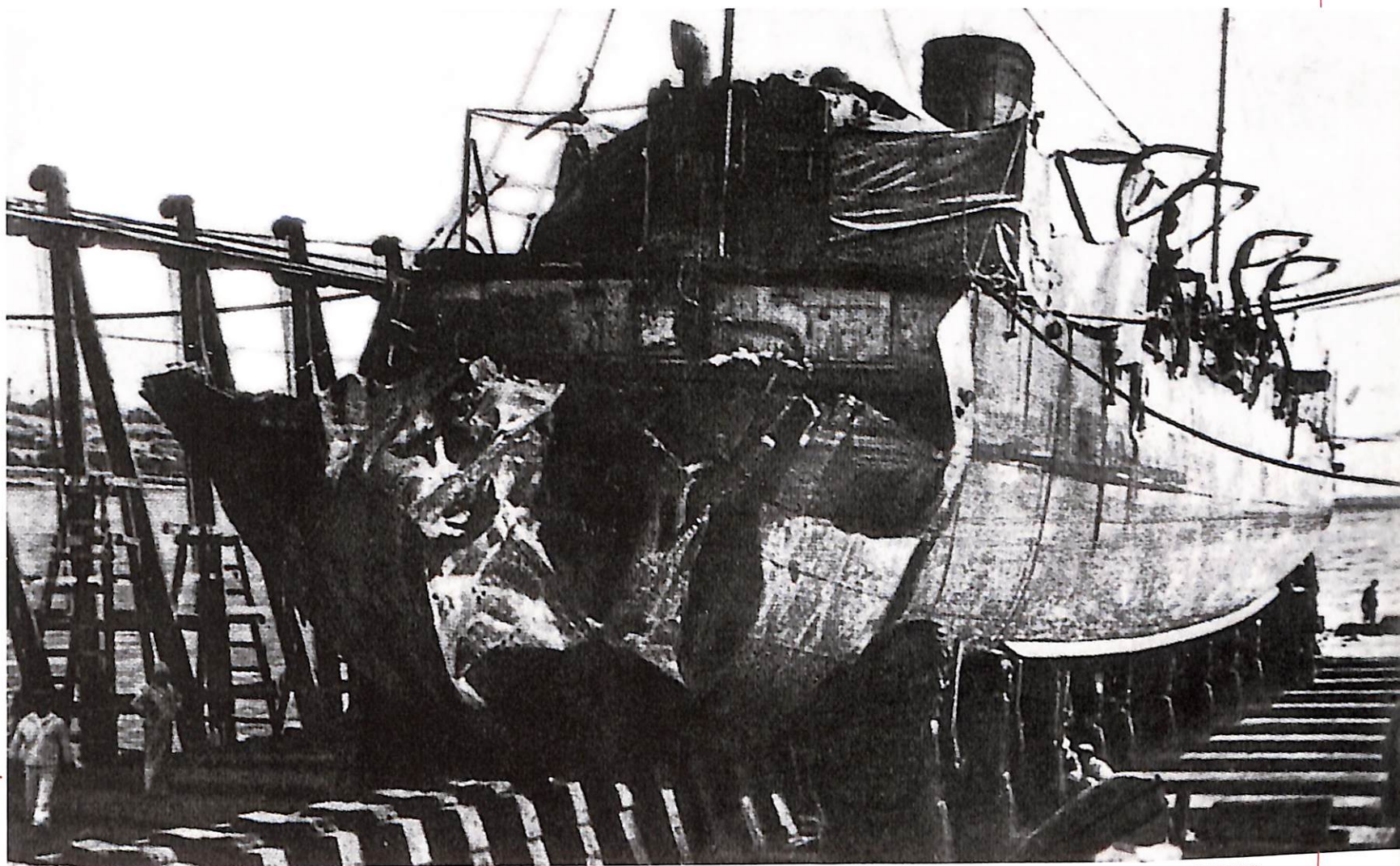
日本の思惑について、元大本営海軍参謀で、『日本帝国海軍はなぜ敗れたか』の著者・吉田俊雄氏は次のように語る。

「日本が最終的に海軍の地中海派遣に応じたのは、日英同盟のよしみからです。山東省のドイツ利権や、ドイツ領南洋諸島の継承を、英仏が日本政府に密約したことも理由でしょう」

外国軍の贅沢な食事に"カルチャーショック"！

大正六年三月七日、シンガポールに集結して地中海に向かった第二特務艦隊（指揮官は佐藤皐蔵少将）の編成は、軽巡洋艦「明石」を旗艦に、第一〇駆逐隊「梅」「楠」「桂」「楓」と第一一駆逐隊「松」「榊」「杉」「柏」の九隻（その後、巡洋艦「日進」「出雲」と、駆逐艦四隻が加わり一五隻）。第二特務艦隊は、四月二六日から翌七年一一月の休戦までの約一年半、マルセイユ―マルタ―アレクサンドリア間の船団護衛を担当。敵艦に最もねらわれやすい軍隊輸送船を護衛した。

冒頭の「榊」を含め、結果的に駆逐艦二隻が被害を受けたが、日本海軍はこの地中海作戦に大きな成果をあげた。

▲根拠地・マルタ島に集結した日本駆逐艦隊。左奥は、巡洋艦「出雲」（旗艦）。 呉市企画部海事博物館推進室提供

▶フランスのマルセイユ港に停泊中の駆逐艦「柏」。大正四年四月に竣工した新鋭艦だった。

▲Uボートの雷撃を受けて大破した駆逐艦「榊」。特務艦隊の戦死者は59人にのぼったが、最終的にドイツ潜水艦13隻を撃沈破する戦果をあげた。 呉市企画部海事博物館推進室提供

たとえば大正六年五月には、イタリアのジェノヴァ湾沖で魚雷攻撃を受けた英国船「トランシルバニア号」を、「榊」と「松」が救助。また翌年五月には、マルタ島に向かっていた英国船「パンクラス号」の船員四六人と軍人四六人を、「桃」と「樫」が救援。こちらはさらに、交戦しながら、座礁した「パンクラス号」を曳航するという武勇伝つきで、乗員は英国国王から勲章を授けられている。

一方で、外国部隊との共同作戦を初体験した日本軍人には、さまざまな〝カルチャーショック〟もあったようだ。

「英国軍艦の食卓はかなりゼイ沢で晩餐などは軍服をディンナー・ジャケットに着替えて食卓につくのだ。日本の軍艦の士官室で魴鮄の焼いた奴に茗荷のおつゆの晩食を機関分隊長が油浸みたカーキー色の作業服のままパクってるのとくらべてみるがいい」（福永恭助『海軍物語』）

当時、大型巡洋艦「出雲」に乗艦していた福永は、マルタ島で行われた英国人艦長の結婚式に出席。「誰かが僕の所に米粒を持ってきて、『花婿花嫁にかけるのだ』と渡した。みると二人は、あちこちから米の包囲攻撃を受けて居った」と、西洋風の式に参列した驚きを記している。

こうした親善も重ねながら、日本海軍が単独で護送した外国の軍艦・輸送船は七八七隻（うち六四三隻が英国船）。日本軍人の戦死・戦病死者は七八人だった。

ところが、この貴重な地中海遠征の体験を日本海軍はその後にまったく生かさなかったと、吉田氏は指摘する。

「第一次世界大戦は規模、犠牲者などが膨大で、従来の戦争とは異質でした。潜水艦の出現で登場した〝海上交通破壊戦〟もそのひとつ。特に無警告、無制限に行われる無制限潜水艦戦は、島国には致命的だった。日本は地中海派遣でその教訓を得ながら、後に生かそうとしなかった。こうして太平洋戦争では、対日無制限潜水艦戦に完膚なきまでに敗れるのです」

連合国から〝地中海の守護神〟とうたわれた日本は、その後、英仏の密約どおり、中国と南洋諸島のドイツ利権を継承。第一次世界大戦に乗じ、さらなる大陸進出の野望を実現していくことになる。

［写真タイムス］

▲大正6年10月22日、上原艦長以下の駆逐艦「榊」戦死者の棺が、横須賀港に安着した。

女たちの肖像

伯爵家若夫人の「大醜聞」！お抱え運転手との心中のはてに芳川鎌子がたどった〝悲惨〟

稲葉真弓

この年の三月八日、「東京朝日新聞」にセンセーショナルな心中事件がスクープされた。見出しは「芳川伯家の若夫人 抱運転手と情死す」。心中をはかったのは芳川顕正伯爵の四女で、子爵・曾禰荒助の二男・寛治の妻、鎌子（二六）と、芳川家のお抱え運転手、倉持陸助（二三）だった。

この心中で倉持は死亡、鎌子はかろうじて生き延びたが、当時の報道を見ると、「夫人ついに絶命」と掲げたものもあり、いかに情報が混乱していたかがわかる。二人は列車に向かって同時に走り出したが、倉持が石につまずいて転び、一瞬飛びこむのが遅れてしまった。このため鎌子だけが列車に轢かれたのだが、この直後、倉持は、たずさえていた匕首で首を刺して自害。鎌子は顔や頭部四ヵ所に深い裂傷を負ったほか、顎を砕かれ、左耳裂傷の重傷を負った。

当時の社会では、上流階級の妻とお抱え運転手の恋は、醜聞以外の何ものでもなかった。このため鎌子は、退院後隠れ住んだ家の塀に、「姦婦ここにあり」と書かれたり、「町の汚れもの」と石を投げられたりすさまじい中傷、誹謗を受けた。

鎌子は、明治二四年、芳川伯爵の妾腹の子として生まれた。四女ではあったが父の顕正に愛され、男児のいない芳川家を相続するため大正元年、養子に迎えた寛治と結婚した。が、この結婚は不幸だった。一女をもうけたものの夫は花柳界に入りびたり、新橋芸者を囲うなど、無類の女好き。鎌子は性病を移されたこともあった。しかも夫は嫉妬深く、前年の大正五年に鎌子のためにと雇った倉持と彼女との関係を疑うようになった。これが呼び水となり、夫に愛想をつかしていた彼女の心は倉持へと傾斜していく。やがて恋は家出、心中という反逆行為へと発展していくのだが、事件後の彼女の人生は悲惨の一語につきる。傷癒えて芳川家に戻った後、正式に夫と離婚。同家からも除籍され、鎌倉の別邸で暮らしたが、心の傷はまだ癒しがたく残っていたのか、七年秋、再び若い運転手と駆け落ち。今度の相手は倉持の同僚の出沢佐太郎だった。

二人は結婚したものの、これが実家との縁の切れ目となった。仕送りがとだえた鎌子は生活に窮したうえ、婦人病から腹膜炎を併発、一〇年四月死去。手術を勧められたが、かたくなに医者を拒否し、ほとんど自殺に近い死だったという。

▲鎌子と倉持の遺書は、秘密裏に焼却されたという。

勝者・敗者

わが国初の国際試合開催 極東選手権全種目制覇で〝水泳王国〟日本が胎動！

阿部珠樹

大正時代のスポーツシーンの中で、極東選手権競技大会のはたした役割は小さくない。大正二年、極東オリンピックの名称のもと、マニラで始まった大会は、フィリピン、中国、日本で、隔年ごとに開催され、オリンピック以外に本格的な国際試合などなかった時代の選手たちに、大きな刺激を与え続けた。

選手たちだけではない。競技役員たちはこの大会によって国際競技会の運営、開催のやり方を学び、マスコミ関係者は、スポーツ報道のノウハウを身につけた。国際交流のむずかしかった時代、極東選手権の持つ意味は大きかったのだ。

その選手権が初めて日本で開かれたのが、この年、大正六年だった。会場は東京、開催期間は五月八日から一二日までの五日間。陸上、自転車、野球など八競技、三四種目の大会は、日本初の大々的な国際試合だった。会場には、寺内正毅首相が激励に訪れるなど、スポーツに対する関心の低い時代にしては注目度も高かった。

日本勢は、野球、テニス、マラソンなどで力を示したが、とりわけ活躍が目立ったのは競泳種目だった。

五〇、一〇〇ヤードの競泳（現在の自由形に相当する）で東京高等師範の齋藤兼吉（二二）が二種目制覇をはたしたのをはじめ、一〇〇ヤード背泳では三好康和が極東記録を更新して優勝、二二〇ヤード平泳ぎでも高浜義春が極東新記録で優勝するなど、九種目を完全制覇した。そのうち五つが極東新記録だから、圧勝と言ってよいだろう。

特に自由形の齋藤が作った五〇ヤードの記録は、当時の世界記録と比べても、ほとんど遜色がなく、関係者はオリンピックでの活躍に大きな期待をかけた。

実際に日本選手がオリンピックの競泳でメダルを獲得するのは昭和に入ってからだが、その基礎は、まさにこの大会で築かれたと言ってもよいだろう。

▶二二〇ヤード競泳決勝のスタート。プールは芝浦の掘割の一部をせき止めたものだった。

［歴史写真］

「写真タイムス」

「大阪」

▲犬養毅(62)、動く(1月)犬養の国民党は憲政会と組み、内閣不信任案を提案。衆議院解散直後、提携を打ち切り最大政党である憲政会の粉砕をねらう。

◀大相撲春場所で東方優勝(1月21日)春場所の東西対抗は東方優勝。29日、その祝賀会が上野精養軒であった。右から二人目が横綱太刀山、左は来賓の万歳。

▲浅草オペラ誕生(1月22日)伊庭孝作の「女軍出征」が、浅草・常盤座で大ヒット。日本初のバレリーナでもある高木徳子(写真)・沢モリノらに大声援が飛んだ。

「写真通信」

▲台湾中部に大地震(1月5日)埔里社支庁管内を中心に、家屋全半壊1000戸に達し、深夜1時近くだったため死者は50人を数えた。前年も2度強震に襲われた。

▶日米国際テニス戦開催(1月25日)東京・麹町でスラックモートン・チャーチ組対熊谷・野村組(写真右から)のダブルスが行われ、3対1で米国が勝った。「サーブ力が勝敗を分けた」と熊谷一弥選手。

「写真タイムス」

▶軍艦「筑波」爆沈(1月14日)横須賀軍港で砲弾積みこみ作業中、船底の火薬庫が爆発、炎を発しつつ沈没、73人が死亡した。爆発の原因が調べられたが不明。写真左は、21日の殉職者合同葬儀。

「写真タイムス」(2点とも)

大正6年1月

- 1(月)●米国、アラバマ州など一九州で禁酒法が発効。
- 2(火)●釜石鉱山田中製鉄所、第八高炉が初稼動。
- 3(水)●米国の女性飛行士・スチンソン、大阪で曲乗り。
- 4(木)●和歌山県の高野山中学、化学研究室を全焼。
- 5(金)●林権助駐中国大使、警察官派駐などを求めた鄭家屯事件交渉を再開(22日、中国が拒絶)。
  ●台湾中部で大地震、死者五〇人。
- 6(土)●住友銀行、中国に漢口支店を開業。
- 7(日)●中国の成都と雲南にも領事館新設、と新聞に。
- 8(月)●横綱の鳳、前橋市での興行で酔っぱらって土俵入りで尻餅をついた、と新聞に。
- 9(火)●閣議、中国の一党派を援助せず、日本の優越的地位確保を決定。
- 10(水)●連合国、ウィルソン米大統領に講和条件提示。
- 11(木)●撫順炭坑で爆発事故、坑口密閉消火のため、坑夫九一七人(うち日本人は一六人)死亡。
- 12(金)●大相撲春場所、東京の国技館で初日(大関の大錦一〇戦全勝優勝、22日横綱昇進決定)。
- 13(土)●猥褻映画上映の一三人、東京で検挙。
- 14(日)●横須賀に停泊中の戦艦「筑波」、火薬庫爆発で沈没、死者七三人。
- 15(月)●寺内正毅首相、憲政会・政友会・国民党の党首と貴族院各派代表に中国政策の支援要請。
- 16(火)●ギリシャ、連合国に損害賠償支払いを受諾。
- 17(水)●憲政会と国民党、寺内内閣に反対を決議。
- 18(木)●房総半島沿海の暴風で漁船五十余隻が難破。
- 19(金)●英海軍情報部、ドイツの無差別潜水艦作戦を二月一日から開始との暗号電報を解読。
- 20(土)●日本興業・朝鮮・台湾三銀行、中国交通銀行に五〇〇万円借款供与の契約締結(西原借款)。
- 21(日)●横須賀海軍集会所で「筑波」殉職者の合同葬。
- 22(月)●文豪・トルストイの子女、日本文学研究に来日。
- 23(火)●寺内首相、列強との協調など施政方針演説。
- 24(水)●明治座で演説中の尾崎行雄を暴漢襲うが無事。
- 25(木)●衆議院、憲政会と国民党が共同提出の内閣不信任案を上程。衆議院解散。
- 26(金)●東京・神田で狂犬、十数人を咬み包囲網を逃走。
- 27(土)●鐘淵紡績の半期決算公告、株主配当一割二分、臨時配当一割四分、純益約三五四万円。
- 28(日)●長野県富士見村でスケート競技会、五〇〇人。
- 29(月)●中等以上の公立学校の初の職員制を公布。
- 30(火)●大阪府鶴田村(現・堺市)、神武天皇碑出資問題で村議一人との絶交を決議。
- 31(水)●メキシコ、新憲法採択(普選、政教分離など)。

ニュース・ファイル

1917

フォト＋日録で再現する365日

世界大戦による日本の軍需景気は最高潮に達し、浅草オペラの公演に長蛇の列ができた。しかし、過剰な通貨の流入でインフレとなり、物価が高騰して庶民生活を苦しめた。そしてこの年、アメリカが参戦し、ロシアでは帝政が倒され、ソビエト政権が誕生した。

◀東京府立巣鴨病院の移転決定(9月)翌々年、小石川区から松沢村へ移り、現存する最古の公立精神病院・松沢病院に。写真は、「蘆原将軍」と呼ばれる巣鴨病院の名物男が、手製の大礼軍装に身を包んだ記念写真。

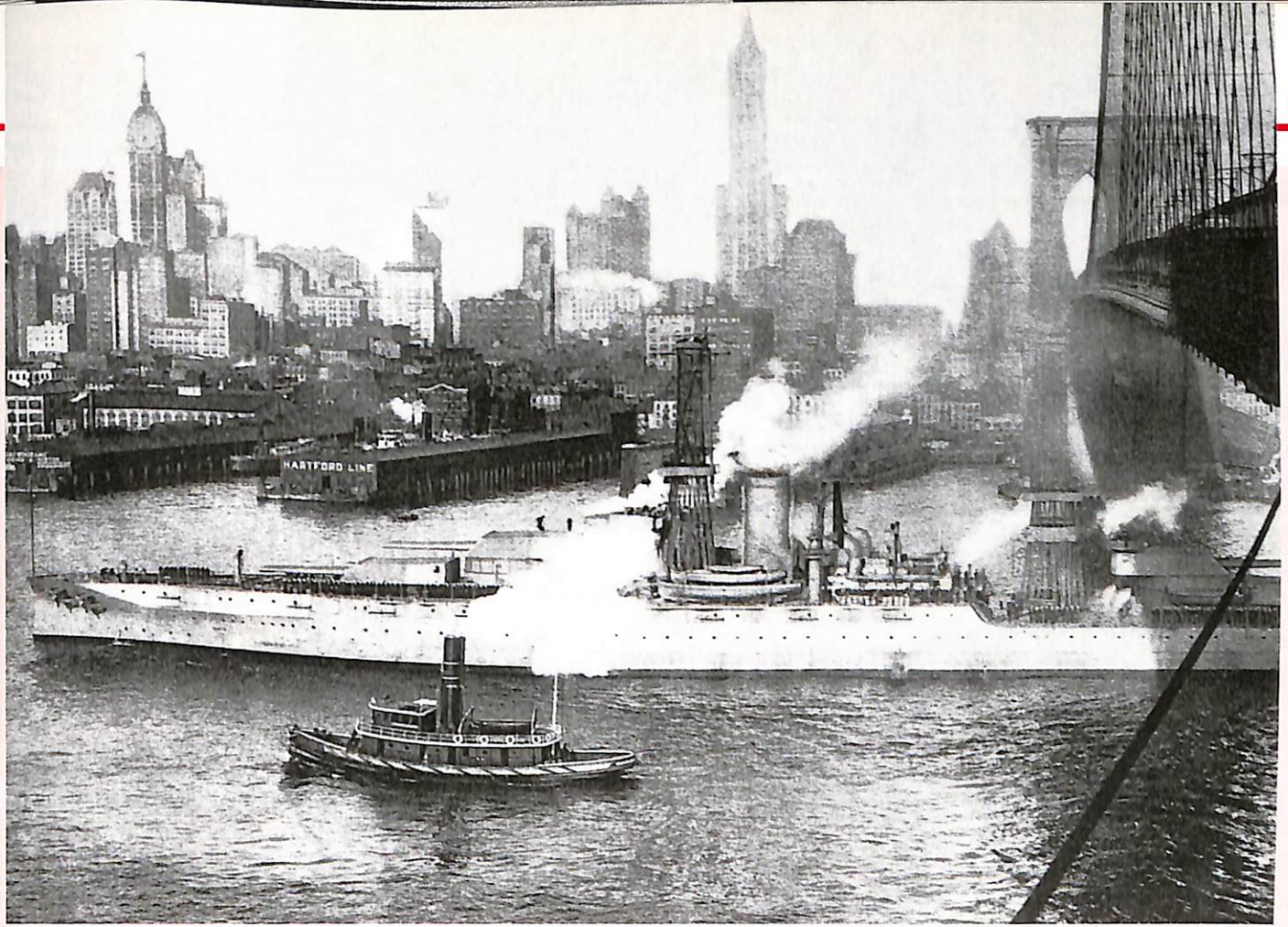
「歴史写真」

▲「山地大飛行」成功（2月15日）所沢の陸軍航空隊「モ式42号」「19号」の2機が、甲府を発ち駒ケ岳・八ケ岳の雪嶺を越え、凍結した諏訪湖上に着陸した。

「写真タイムス」

◀米、独と国交断絶（2月3日）無制限潜水艦作戦を再開したドイツが、米船をUボートで撃沈。写真は、ブルックリン橋の下で出撃に備える米国の超弩級戦艦「アリゾナ」。

「写真通信」

▼メキシコ、新憲法公布（2月5日）カランサ大統領が急進派との抗争を経て、ディアス独裁体制時代の大土地所有制度をくつがえし、労働者の団結権、普通選挙などを認める民主的憲法を制定。写真は、教書を読む大統領。

「写真通信」

毎日新聞社

◀大面油田、噴出（3月30日）米国から機械を導入し、大正3年に新潟・大面村の採掘を始めた日本石油の第4号井から、日産約90万リットルを産出。ガス量と合わせて国内第2位を誇った。

▶清朝皇族・粛親王と蒙古将軍の子ら、日本留学（2月12日）満蒙独立をもくろむ大陸浪人・川島浪速が案内。中央は東京駅に出迎えた粛親王第14王女で、川島の養女・芳子（10）。

「写真タイムス」

▲東京・洲崎遊廓で大火（2月14日）午後3時頃、貸座敷の湯殿から出火、烈風にあおられてたちまち猛火が広がり52戸が全焼、近隣の商店二十余戸も類焼した。重軽傷者十数人。

「写真通信」

証言・あの日この日
横光利一（19）

7月20日（金）〈俺は実際あれから厭世を起こして了つた。一月に再び上京はしたが、もう学校は止した。そして直ぐ此の静かな山科に帰つて孤独な生活を送つてゐる。／俺は毎日読書と創作とに耽つてゐる。俺は御前の病を聞いてそしてそれがそんなに重体であつたのを知つて、快癒を祈る心よりも、驚愕の方が早く飛び出した。今日は二十日だ、これからが暑いのだ〉（横光利一「書簡」）

横光利一は大正5年、父の反対を押し切って上京し、早稲田大学高等予科英文科に入学した。そして最初、下戸塚の栄進館に住む。その後友人たちと雑司ケ谷で共同生活をするが、都会への違和感や失恋などが原因で神経衰弱になり、両親のいる山科（現・喜多方市）に帰郷する。しかしこの年は、創作欲も旺盛で7月「文章世界」に投稿した「神馬」が初めて活字になる。（山崎行太郎）

▲東京中央郵便局に初の地下鉄（3月31日）木造2階建ての新局舎と東京駅を、地下道で接続。初の地下軌道を使う郵便物搬送を行った。写真は28日の試運転。

「写真タイムス」

▶大錦（25）、横綱昇進（3月20日）春場所で「打倒太刀山」を達成し全勝優勝、入幕後6場所目というスピード出世で昇進。土俵入りの初披露では太刀持ちを栃木山がつとめた。左は露払い・小常陸。

「写真通信」

▼ペトログラードに「2月革命」（3月15日）8日（露暦2月23日）女性労働者の「パンをよこせ」というデモを契機に、軍隊をも巻きこむ大反乱に。ニコライ2世の帝政が崩壊した。

Sovphoto/ユニフォトプレス

理化学研究所提供（二点とも）

▲▶理化学研究所設立（3月20日）日本の産業発展のため、物理・化学両方面にわたる研究所の必要が説かれ、皇室下賜金、政府補助金、寄付金などで設立。写真は東京・駒込の1号館と所長・菊池大麓。

「歴史写真」

▲遷都50年奉祝博覧会、開く（3月15日）東京・上野公園の不忍池畔で5月31日まで実施。京都から東京への道筋である東海道五十三次の模型、欧州観戦飛行館などが呼び物だった。

大正6年2月

1（木）●箱根一帯の群発地震、沈静化（1月28日発生、大涌谷に新噴煙口、湯本では地盤に亀裂）。
2（金）●農商務省、大正五年度の米の実収高は五八三〇万石と発表、前年比約二四〇万石増。
3（土）●米国、ドイツと国交断絶。
4（日）●米・独国交断絶の入報で、生糸定期市場の相場暴落（5日から三日間立ち会い停止）。
5（月）●横浜市の工場から出火、一一三戸延焼。
6（火）●四日に死亡した東京・牛込のコレラ患者の家族六人も保菌者と確定し、病院に収容。
7（水）●米海軍の軍艦ごとに野球チームがあり、兵学校では女性と手を組んで歩く、と新聞に。
8（木）●藤井日達、皇居前で七日間の唱題行を開始。
9（金）●キューバ、ゴメス前大統領が反乱。
10（土）●警視庁、雇人や芸娼妓の口入営業規則を廃止、紹介営業取締規則を制定。
11（日）●東京府慈善協会、設立（社会事業協会の前身）。
12（月）●政府、中国に、独・オーストリアとの国交断絶を勧告。
13（火）●英外相、山東省と赤道以北独領諸島についての日本の要求を、講和会議で支持と回答。
●後藤新平内相、地方長官会議の訓示について憲政会を「不自然なる多数党」と攻撃。
14（水）●主婦向けの生活実用雑誌「主婦之友」創刊。
15（木）●萩原朔太郎『月に吠える』刊行。
16（金）●逓信省、欧州戦争で滞貨が多いため、ロシア行きの小包を二週間の予定で停止。
17（土）●五〇円でそろう雛飾りが、成金連中からは一〇〇〇円以上のあつらえ品発注、と新聞に。
18（日）●独、対ロシア戦を再開。
19（月）●横浜地裁、大杉栄を刺した神近市子の第一回公判（3月5日懲役四年判決、同7日保釈）。
20（火）●造船材料暴騰、原因は独の潜航艇戦と新聞に。
21（水）●成田山新勝寺の僧侶三〇人、賭博開帳で検挙。
22（木）●大蔵省、一月末の貨幣流通は六億九五五五万円、前年同月比一億二四七三万円増と発表。
23（金）●日本郵船、欧米航路船舶に武装を決定。
24（土）●政友会、野田卯太郎を通じて寺内内閣の中立議員選挙運動支援に警告。
25（日）●帝劇と松竹、四月は「助六」と「勧進帳」で対抗、と新聞に。
26（月）●農商務省、戦時海上保険料率引上げを告示。
27（火）●日銀、穴のあいた五銭の白銅貨を発行。
28（水）●兵庫県の関西学院中学部校舎、全焼。

大正6年3月

1（木）●福岡県八幡（現・北九州市）、市制を施行。
2（金）●米国、プエルトリコを準州に（ジョーンズ法）。
3（土）●露・ペトログラードの工場スト、モスクワにもおよび政治ゼネストに（露暦2月18日）。
4（日）●庶民用のタバコ「敷島」、品切れで店頭から消える、高いタバコを売るためか、と新聞に。
5（月）●岡田文相、高校長会議に入試制度改正を諮問。
6（火）●大阪の選挙違反、供応二回五五銭で罰金三〇円と五年間の選挙権停止、と新聞に。
7（水）●芳川伯爵の四女・鎌子、お抱え運転手と千葉駅近くで飛び込み心中（鎌子のみ助かる）。
8（木）●ガスリー米駐日大使、東京でゴルフ中に客死。
9（金）●二月中のドイツ軍による撃沈船、一八八隻五一万八〇六〇トン、と新聞に。
10（土）●日本工業倶楽部、創立総会（理事長・団琢磨）。
●中国衆議院、対独断交案可決（14日対独断交）。
11（日）●揚げ荷少なくハワイの邦人食品不足と新聞に。
12（月）●露・ペトログラードにソビエト組織成立（15日、臨時政府成立、王朝滅亡。ロシア「二月革命」）。
13（火）●正倉院御物の裂地断片などが行方不明で故小杉博士の遺族から転売、と新聞に。
14（水）●室蘭の日本製鋼所職工三〇〇〇人、賃上げ要求スト（指導者は検挙、二二人解雇）。
15（木）●本多光太郎著『磁気と物質』刊行。
16（金）●山梨県日野村の実母殺し犯、死刑執行。
17（土）●汪大燮中国特使、黎元洪大総統の親書を捧呈。
18（日）●日銀、横浜正金銀行に八〇〇万円特別融資。
19（月）●長崎県の松島炭坑で火災、死者五〇人。
20（火）●理化学研究所、設立（渋沢栄一創立委員長、菊池大麓所長）。
21（水）●米国、ロシア臨時政府を承認（22日、イギリス、フランス、イタリアの各国も）。
22（木）●フランス、一般的輸入禁止令を公布。
23（金）●大阪北区で一二〇戸全半焼の大火、火元は蝋燭製造会社の工場。
24（土）●警視庁、新任保安部長が廓清をはかり、金品受領などの不正庁員九人を免官、と新聞に。
25（日）●女学校の新入生、毎年ふえる一方、と新聞に。
26（月）●私立東京薬学専門学校、設立認可。
27（火）●閣議、ロシア臨時政府承認。
28（水）●東京株式取引所、二〇〇〇万円の増資決定。
29（木）●ロシア臨時政府、ポーランドの独立を承認。
30（金）●九年ぶり、桜の季節に雪が降った、と新聞に。
31（土）●戦艦「山城」、横須賀海軍工廠で竣工。

▲澤正、新国劇結成（4月18日）芸術座を脱退した澤田正二郎（24）が、大衆的な舞台をめざし、東京・新富座で旗揚げ。しかし失敗し、翌年、殺陣で人気沸騰。

「歴史写真」

▲渋沢栄一（77）、引退慰労会（4月21日）東京・帝国ホテルで、京浜の実業家らが盛大な慰労会を開催。日本資本主義を発展させた功績をたたえた。その後は、社会公共事業と国際親善に尽力した。写真中央が渋沢夫妻。

「写真タイムス」

▲「駅伝」（4月27日）東京遷都50年を記念して、東海道五十三次で実施。翌々日、東京・上野遷都博会場に関東組・金栗四三、関西組・日比野章が到着した。

▶奉天省督軍・張作霖、独立を宣言（4月30日）北京政府から離反。以降、同様の省が続出した。写真は、この頃の張（前列左から二人目）。その右は大谷光演。

「歴史写真」

Imperial War Museum／ユニフォト・プレス

▲「アラスの戦い」で連合軍反撃（4月11日）仏北部で独軍を次々撃破、ビミー山嶺東側を越え捕虜は1万人以上に達し、西部戦線は連合軍有利に。写真は、独軍撤退後の教会の、破壊と略奪の跡。

▶井の頭恩賜公園が開園（4月30日）東京府下吉祥寺駅近くの神田上水水源地を中心に、武蔵野の面影を残して建設。池畔には赤い弁天堂（写真）がたたずむ。右下は開園式当日のにぎわい。

「写真タイムス」

大正6年4月

1（日）●東京市内、電話で、「火事」と言えば消防署に接続する制度を開始。
2（月）●ウィルソン米大統領、議会で対独戦争要請の演説（6日、ドイツに宣戦布告）。
3（火）●長野駅構内で客車と貨車が衝突、乗客は無事。
4（水）●陸士予備校の成城学校、付設の小学校開校。
5（木）●請願の手続きと形式を定めた請願令、公布。
6（金）●友愛会創立五周年大会、婦人も正会員に。
●佐藤愛麿駐米大使とランシング米国務長官、新移民法と日米紳士協約について書簡交換。
7（土）●浅野造船所、横浜の鶴見工場開所式。
8（日）●長崎県神浦村（現・外海町）で、浪花節を興行中のむしろ掛け小屋で火災、九三人焼死。
9（月）●春休みで奈良県の吉野方面を登山中の大阪の中学生二人、積雪の山上ケ岳で遺体発見。
10（火）●紡績連合会、中国の関税引き上げ反対決議。
11（水）●昭憲皇太后の御三年式年祭、挙行。
12（木）●東京農商銀行休業、預金者二〇〇人集会。
13（金）●伊能忠敬一〇〇年忌、東京・浅草の源空寺で。
14（土）●極東大会予選の野球争覇戦、早明戦で開始。
15（日）●阿部次郎著『美学』刊行。
16（月）●本年度の徴兵検査、全国的に始まる。
●慶応義塾、創設した医学科予科の授業開始。
17（火）●レーニン、土地の国有化など一〇ヵ条を提唱（四月テーゼ、20日「プラウダ」で発表）。
18（水）●澤田正二郎・倉橋仙太郎ら新国劇を結成、東京の新富座で第一回公演（21日まで）。
19（木）●枢密院御前会議、対敵取引禁止令を可決。
20（金）●第一三回総選挙（政友会一六五、憲政会一二一、国民党三五、無所属六〇の議席数）。
21（土）●日銀正貨発行高、一週間で三八〇〇万円ふえ、過去最高七億七四〇〇万円、と新聞に。
22（日）●池田大伍初演、「西郷とお玉」を有楽座で。
23（月）●牧野英一著『日本刑法』刊行。
24（火）●全国参謀長会議、動員計画などが議題。
25（水）●東京市上下水道公債一〇〇〇万円発行。
26（木）●佐賀師範学校三・四年生全員、校長排斥を訴えて同盟休校（生徒一二〇人無期停学）。
27（金）●読売新聞社主催、京都—東京間昼夜兼行の東海道五十三次駅伝競走（「駅伝」呼称の初め）。
28（土）●岐阜県中津町（現・中津川市）で竜巻発生、負傷者十数人、被害家屋一〇戸。
29（日）●皇太子、一七回目の誕生日で台覧大相撲。
30（月）●中国奉天省督軍の張作霖、政府から独立宣言。

「歴史写真」

▶鉄道院、広軌実験（5月23日）前年、後藤新平を三たび総裁に迎え、広軌改築化への夢が再燃。横浜線・原町田付近で試行。しかし財政上の問題のため、計画は頓挫した。

▶李王世子・垠、陸士卒業（5月25日）東京・市ケ谷で行われた卒業式典に、大正天皇も行幸。梨本宮方子との結婚が予定されていた垠が、梨本宮の前で銃剣術を披露した。

「歴史写真」

◀第13回総選挙（4月20日）寺内内閣が不信任に同調した憲政会候補に選挙干渉。〝厳正中立〟の政友会が大勝し、第1党の座に返り咲いた。写真は、東京・神田区役所投票場前。

▲大阪に初の公立結核療養所（5月）大正3年公布の設置法に基づき、大阪市立刀根山療養所（後に国立）が完成。350床。病室のほか娯楽室、サンルームもあり、9月1日開設した。

▶ケレンスキー（36）、陸海相に就任（5月18日）帝政崩壊後のロシア臨時政府に入閣。ポストが変わって「平和のための戦争」を説くが、民衆は反発する。

「イリュストラシオン」

▶松方正義（82）、内大臣に就任（5月2日）大山巌の後を継ぎ、大正天皇の側近に侍して補佐。明治14年に大蔵卿に就任して以降、「松方緊縮財政」で日本の財政・経済の基盤を確立。大正11年拝辞。

「写真通信」

大正6年5月

1（火）●グリーン英駐日大使、地中海への日本駆逐艦増派を要請（25日、四隻増派を回答）。
2（水）●松方正義を内大臣に任命。
3（木）●日本タイプライター、設立（和文タイプライターの企業化）。
4（金）●愛国婦人会一六回通常総会、全国から二万人を集め東京・日比谷公園で開催。
5（土）●大阪市の東京倉庫で爆発事故、死者四三人。
●久保良英ら、児童研究所を開設。
6（日）●丸善、一日から売り出した一円三〇銭の麦藁帽の「売れ行き自動車よりも迅速」と新聞広告。
7（月）●中国・段祺瑞総理の対独参戦案に、国民党系五派が反対（23日、黎元洪大総統が総理を罷免）。
8（火）●第三回極東選手権競技大会、東京で開催（日本で初の国際大会、12日まで）。
9（水）●明治商業銀行、休業（27日、解散決定）。
10（木）●総選挙の違反、一二〇四件五〇二六人、うち一九三件七二八人は不起訴、と新聞に。
11（金）●日米協会（会長・金子堅太郎）、発会式。
12（土）●岡山県、初の地方委員制の済世顧問設置公布。
13（日）●極東大会参加の中国・フィリピンの選手と東京・上野精養軒で懇親会開催。
14（月）●内務省、市電延長の大阪市債七〇万円を認可。
15（火）●山陰本線、石見大田—仁万間開通。
16（水）●新造汽船「水島丸」、四国連絡船に就航。
17（木）●東京株式市場、独露講和説で一時乱高下。
18（金）●静岡県一帯に大地震、防火壁倒壊で死者二人。
19（土）●大相撲夏場所九日目、寺内首相が見物。
20（日）●羽田飛行学校教官の玉井清太郎、墜落死。
21（月）●逓信省、振替払渡し期日延長の規則改正（23日、点字刊行物の郵便料金を低減）。
22（火）●米沢市で大火、二三〇〇戸焼失、死者一一人。
23（水）●鉄道院、横浜線で広軌改築試験を開始。
24（木）●火事が多いのは戦争景気で工場多忙のため、と新聞に。
25（金）●寺内首相、機密保持などを官吏に訓令。
26（土）●ペルー移民二三〇人、「静洋丸」で横浜出発。
27（日）●東京市、共同栓の水道盗用者を調査と新聞に。
28（月）●真壁飛行中尉、欧州の航空機研究のため出発。
29（火）●中国、安徽・河南・陝西など七省の軍閥が独立宣言（6月12日、黎大総統、国会解散）。
30（水）●米国で研究中の野口英世、27日から危篤との特派員電が新聞に。
31（木）●初の武装商船「宮崎丸」、英海峡で撃沈。

「太陽」

▲ギリシャ国王・コンスタンティノス1世退位（6月12日）独皇帝の妹を妻とし、親独的政策をとったため、連合軍の圧力を受け、ついに次子に譲位、スイスに亡命した。写真右端。

▼隅田川河口で3000トン級進水（6月3日）東京市の浚渫などにより、石川島造船所が建造した「第2厚田丸」が進水可能に。長さ約82メートルもある巨船だった。

▲芥川龍之介『羅生門』出版記念会（6月27日）自装による第1短編集を発刊。評価はうなぎのぼりだった。写真は、日本橋で行われた祝賀会。左手前・芥川。右端・谷崎潤一郎。

「写真タイムス」

▶陪審模擬裁判開く（6月16日）多数の傍聴者を集め、東京・青年会館で「貴族若夫人の情死事件」でテスト。陪審制は昭和3年～18年の間だけ実現する。

「歴史写真」

「写真通信」

▲元老・山県有朋、傘寿（6月14日）前年、寺内正毅の「超然内閣」を立てるなど、老いてなお権力は絶大。写真は東京・目白の私邸、椿山荘での祝賀会。

「歴史写真」

▶千数百年前の独木舟発掘（6月8日）西淀川の支流、大阪の鯰江川流域今福で見つかった。単材でなく2枚の用材を接合、長さは約13メートル。

大正6年6月

1（金）●住友銀行、増資にともない三万株公開募集を決定（財閥銀行の株式公開の初め）。

2（土）●寺内首相、三党首に臨時外交調査会委員就任を懇請（原・犬養受諾、加藤は拒絶）。

3（日）●鳴尾―東京間飛行に挑戦した「翦風号」、故障のため四日市に不時着。

4（月）●第一回ピュリッツァー賞、新聞報道部門は「ニューヨーク・ワールド」紙のスウォープに。

5（火）●京浜電車、大森付近で衝突事故、死者一人。

6（水）●臨時外交調査委員会官制公布（天皇直属、総裁は首相、九委員任命、即日施行）。

7（木）●経済調査会金融部会、航路拡張や海事金融機関の整備などを決議。

8（金）●豊島与志雄著『生あらば』刊行。

9（土）●京都工芸品展、農商務省商品陳列館で開催。

10（日）●岐阜県各務原飛行場、開設（16日開場式）。
●東京・神田の中央大学、全焼。

11（月）●下村観山など一一人、帝室技芸員に。
●駆逐艦「榊」、地中海で交戦、五九人戦死。

12（火）●野村徳七ら、東京帝大植物学科に遺伝学講座新設資金を寄付（翌年7月、設置）。
●佐佐木信綱、寺田寅彦らに学士院恩賜賞決定。

13（水）●石井菊次郎を米国特命全権大使に任命。

14（木）●日韓併合以来初上京の李王、参内。

15（金）●松本剛吉ら四三議員、維新会を結成。

16（土）●神戸の商船「唐山丸」、ドイツ潜航艇が撃沈。

17（日）●東海道本線貨物支線、鶴見―高島間、東神奈川―高島間開業（横浜臨港貨物線の初め）。

18（月）●長崎三菱造船所、賃上げスト（28日、解決）。

19（火）●政友会臨時大会、内閣・野党と厳正中立決議。

20（水）●犬養毅、国民党に新設の総裁職に就任。

21（木）●第三九回特別議会召集（23日～7月14日）。

22（金）●鈴木梅太郎、日本人の食物問題で蛋白質など栄養価値の根本研究が必要と談話記事。

23（土）●実業界を引退した渋沢栄一、東京高等商業倫理科講師となり第一回「経済と道徳」を講演。

24（日）●ロラン著・大杉栄訳『民衆芸術論』刊行。

25（月）●予算案を衆議院に提出（7月14日、成立）。

26（火）●寺内首相、衆院で米参戦歓迎と施政方針演説。

27（水）●三菱上山田炭坑で朝鮮人の使役始まる。

28（木）●憲政会、内閣不信任案を提出（30日、否決）。

29（金）●埼玉県北部に鶏卵大の雹、家屋倒壊七戸、負傷者多く、農作物の被害甚大。

30（土）●保健衛生調査会、精神病の全国一斉調査実施。

「現場」を歩く 丸の内

経団連の前身から財界人の社交場へ 日本工業倶楽部の八〇年

山本徹美

▲東京駅近くのビジネス街の一角に建つ倶楽部会館。外観は竣成時そのまま。　但馬一憲

大正六年三月一〇日午後二時、東京・有楽町にある鉄道協会で日本工業倶楽部の創立総会が開催された。

会場には一八五人の会員が集まり、評議員一二〇人を選出。ただちに評議委員会が開かれ、理事二五人を選出。初代理事長には三井財閥の重鎮、団琢磨（五八）が選出され、就任した。

「本社団ハ工業家ノ連絡ヲ鞏固ニシ斯業ノ発展ヲ図ルコトヲ目的トスル公益法人トス」（定款第一章第一条）

明治維新以降、政府主導によって富国強兵策が進められる中、民間工業家の意見はほとんど無視され、金融資本家の意見のみ「財界」を代表するものとして採用されていた。それを打破すべく工業家が経済団体を結成し、政策にも反映させようというのが主旨である。いわば、第二次世界大戦後の昭和二一年に結成された経済団体連合会の前身だった。

大正九年一一月、東京・丸の内に日本工業倶楽部会館が竣成。敷地面積約七〇〇坪、五階建てで延べ床面積二四一〇坪、二階に大会堂（一一二坪）、三階に大食堂（一一〇坪）を配し、大小会議室が一八部屋、特に名目のない部屋が四〇。すべて洋室だが、唯一、二〇坪の和室があり、これは大倉喜八郎男爵が五万円寄付の代償に邦楽鑑賞用にと要望したもの。総工費一四七万三四七〇円は三井、三菱、安田など財閥や会員からの寄付による。土地は三菱合資会社からの借地だった。

今や本来の「倶楽部」に

日本工業倶楽部を訪ねてみた。正面玄関には威厳が漂い入りづらく、通用門へ。

「会員かその同伴がなくては入館できません。祝祭日以外、午前九時から午後九時まで開館していて、一日の平均利用者数は四三〇人です」（同社団総務部）

創設時こそ利用者は一日平均二〇〇人程度だったが、毎年ふえ、昭和一七年には六〇七人とピークに達する。その利用頻度が同倶楽部の存在理由を表す。まず、大正八年、製鉄事業の保護、自給に関する建議を提出、さらに所得税法改正への意見書、産業保護と関税政策への具申、労働組合法制定に対する反対運動と続く。が、太平洋戦争に向け戦時経済統制が敷かれるあたりから、活動は鈍化してゆく。

会館は戦災をまぬがれ、GHQ（連合国総司令部）の接収も回避。現在、会員は一六〇〇人（法人五〇〇）、理事長は平岩外四・東京電力元会長。

「通産省管轄の経済団体ですが、今や社交クラブ化している点は否めません。創設時、主要会員の平均年齢は五一歳でしたが、現在は七四歳です」（同前）

私などまったく縁のない大財界人の社交場だが、彼らが談話や囲碁、将棋などを楽しめるのも経済発展があればこそ。創立八〇年にして、英国などにある「倶楽部」本来の姿にいたったように思う。

▲大正9年11月25日、大会堂で行われた倶楽部会館の新築落成式。原敬首相以下の来賓と会員。合わせて471人が出席した。

ベストセラー

朔太郎、芥川の出世作！『月に吠える』と『羅生門』

この年二月、萩原朔太郎の処女詩集『月に吠える』が刊行され、大いに評判となった。北原白秋と室生犀星が序文と跋文を寄せ、これが遺作となった田中恭吉の版画や、その後を継いだ恩地孝四郎の版画が随所にはさまれるという、豪華な詩集だった。タイトルに関しては、萩原自身が序文の中で次のように記している。

「月に吠える犬は、自分の影に怪しみ恐れて吠えるのである。疾患する犬の心に、月は青白い幽霊のやうな不吉の謎である。犬は遠吠えをする。

私は私自身の陰鬱な影を、月夜の地上に釘づけにしてしまひたい」

収録された作品には「地面の底に顔があらはれ、／さみしい病人の顔があらはれ。」というリフレインを持つ「地面の底の病気の顔」のほか、「竹」「悲しい月夜」「くさつた蛤」などの名作があり、萩原自身の詩論も序文に加えられた。

萩原朔太郎が鮮烈なデビューを飾ってまもなく、五月には、芥川龍之介が小説家として大きな一歩を踏み出す初期作品集『羅生門』を上梓した。表題作のほか「鼻」「芋粥」など古典に材を求めた作者二〇代なかばの初期作品が集められた。このうち「鼻」は第四次「新思潮」に発表し、夏目漱石に認められていた。

一方、女性台頭の時代を反映して、この年、雑誌「主婦之友」が創刊された。インテリ層向けのハイブラウな編集ではなく、もっと一般向けの、実用雑誌に近い趣を持っていた。目次に記された次のような表題からもその様子はわかる。

「夫の意気地なしを嘆く妻へ＝新渡戸稲造」「何といって良人を呼ぶか＝名流婦人方の返答」「名流若奥様の家政振＝加納子爵令嗣夫人」「写真鑑定・婦人の運命判断」「共稼で月収三十三円の新家庭」「六十五円で六人家内の生活法」「良人から若き妻への註文二十ケ條」といった具合で、生活のノウハウを提供しようとした。

日本近代文学館提供（右下1点とも）

▲『月に吠える』（感情詩社、90銭）

▼『主婦之友』創刊号（東京家政研究会、15銭）

大宅壮一文庫提供

▶『羅生門』（阿蘭陀書房、1円）

スターと名場面

日本での興行権は二万円！チャップリン風弁士も登場

この頃になると、洋画の方ではチャールズ・チャップリンの人気が大いに高まっており、この年には「珍カルメン」が公開され、チョビ髭とくりくりした目による表情豊かな演技や、膝を開いた独特の歩き方など、チャップリン流は一世を風靡するにいたった。そのかっこうをまねた弁士まで登場していたのだから、人気のほどがうかがわれる。日活がこの年三月、当時としては巨額の二万円を投じて、チャップリン映画の日本興行権を獲得したのも、チャップリン人気が、それでも十分採算のとれるものであるのを見こしてのことだった。

邦画では映画に演劇に大活躍の井上正夫が監督し、みずから主演した「大尉の娘」が、新しい撮影技術を意欲的に取り入れた斬新な作品と評判になった。回想場面や遠くの人を思う場面でカット・バックの手法を用いたり、クローズアップや移動撮影の採用によって、より効果的にストーリーを展開させるなど、ファンにとっても刺激的な映画だった。

また伝統演劇の方では、歌舞伎の市村座に初代中村吉右衛門が登場。この頃にはすでにスターの座を確保し、六代目尾上菊五郎とともに〝菊吉時代〟を築き上げていった。

マツダ映画社提供

▶軍服姿のチャップリン。しかしその所作や表情は、その後のチャップリンと変わらないものだった。

▶「大尉の娘」で、後備役の大尉を演じた井上正夫（左）と女形の木下吉之助（右）。

◀大正四年に明治座で撮影された、初代中村吉右衛門の雄姿。

松竹提供

モノ語り'17

進化するお洒落！「七色粉白粉」に〝洋髪〟用の「マーセルアイロン」

◀髪のお洒落も一段と進んだ　髪にウエーブをかけることが流行したこの頃、簡単にウエーブをかける道具として「マーセルアイロン」が使われ始めた。鋏状のコテを火で熱し、これで髪をはさみウエーブをつけた。

国際理容美容専門学校蔵

◀機関銃から生まれた紙の綴り器　アメリカ人、ベンジャミン・ホチキスが、機関銃の弾丸送り装置からヒントを得て発明した紙の綴り器「ホチキス」は、すでに明治36年頃から伊藤喜商店（現・イトーキ）が輸入・販売し、大正初期には国内で製造するようになった。そしてこの年、「ホチキス」は正式に伊藤喜商店の登録商標となった。鳩の姿をかたどったオリジナル・デザインも洒落ていた。

イトーキ資料館蔵／石井美雄

▲教育用ビジュアル機器も発達した　〝教育用理化器械〟の専門メーカーだった島津製作所は、この頃、実物幻灯機「ラジオプチカン」の製造販売を始めていた。アセチレンランプを光源として、文献など不透明な素材を投影したもので、今ならさしずめOHP（オーバーヘッド・プロジェクター）のような機器だった。

島津創業記念資料館蔵／石井美雄

▶育児用粉ミルクの初登場　乳児の栄養源として母乳以外に用いられていた牛乳は、冷蔵保存設備が不十分だったこともあって、品質保持がむずかしく、乳児の健康に悪影響を与えることが少なくなかった。そういう状況下で、和光堂が粉ミルクの開発に成功し、これを「キノミール」と名づけてこの年3月に発売、人気を呼んだ。牛乳に滋養糖を加えた、国産初の育児用粉乳の誕生だった。

◀国産腕時計が作られるようになった　携帯時計と言えば懐中時計だった時計市場に、服部時計店（現・セイコー）が国産の腕時計「ローレル」を参入させたのは大正2年のことだったが、この年、組織を株式会社に改め、本格的な腕時計の生産・販売体制を固めた。なお当時は、懐中時計が日産200個だったのに対して、「ローレル」は一日に30個が限度だったという。精密工業技術の粋を集めた製品だったのである。

セイコー時計資料館蔵／田代真一

▼個人の特徴を生かす化粧品　白粉（おしろい）と言えば文字どおり「白」が常識だった時代に、資生堂からこの年発売されたのが「七色粉白粉」。白、黄色、肉黄色、ばら、牡丹、緑、紫で、色の黒い人はばら色や紫、色の赤い人は緑など、個人の顔の色に合わせて選び、顔色をよりよく見せる効果が得られるという画期的な化粧品だった。芸者たちの間で評判になったが、お洒落な女性たちの人気も獲得した。

女性の髪形も活動的に

大正時代、女性の髪形はそれまでの日本髪から活動的な束髪へと流行が移っていったが、中でも女性たちの注目を集めたのが「耳かくし」と呼ばれる、ウエーブを取り入れた束髪だった。それ以前の束髪は、編み毛を取り入れたり、毛たばを入れて結い上げたりした形だったのに比べ、こちらは髪質を変えるという点でほかの束髪とは一線を画しており、そのため「洋髪」とも呼ばれていた。

また「耳かくし」は、正面から見ると短髪のように見え、女性が髪を短くするにはまだ抵抗のあった時代においては画期的な髪形だった。

国際理容美容専門学校提供

人物クローズアップ

坂田三吉(四七)

次期名人位を賭けた「大一番」浪花の力将棋、関根を倒す!

▲ゆかりの将棋道具一式。坂田が残した直筆の文字は「馬」と「三」の2種類だけである。

舳松歴史資料館提供(左一点とも)

大正六年一〇月八日、東京・芝区(現・港区)田町の伯爵・柳沢保恵邸で、大阪の棋界を代表する坂田三吉八段(四七)と、当時最強をうたわれた関東の関根金次郎八段(四九)の対局が行われた。午前九時に始まった対戦は、翌日夕刻に決着がつき、勝負は坂田の完勝に終わった。

現在のように、実力制によって名人が決定されるようになったのは昭和一二年以降のことである。それ以前は政財界人などの将棋の後援者の推薦で決められ、名人を授けられたものは終生名人であり続けた。いわゆる〝一世名人制〟である。

この日の対戦には、次期名人への思惑がこめられていた。勝てば坂田は名人の最有力候補になる。続いて一六、一七日の両日、坂田は関根の高弟で、八段を目前にしていた土居市太郎(二九)と対戦した。土居を倒せば当面の敵はいなくなり、名人は自動的に転がりこむという計算である。駄目押しのための対戦だった。

しかし、不覚にも坂田は大敗、同月二二日に再度上京して再び関根を破ったものの、格下の土居に敗れたことから、名人への野望はついえるのである。

坂田三吉(戸籍上は阪田)は、明治三年六月三日、和泉国大鳥郡舳松村(現・大阪府堺市協和町)生まれ。家は極貧で就学できず、そのため生涯文字の読み書きができなかった。生い立ちについては坂田自身も語らず、まったく不明と言っていい。ただ、坂田の弟子であった藤内金吾八段によると、父は草履作りを家業とし、坂田もその職人であったという。将棋が好きで、それもズバ抜けた才能があった。むろんすべて独学だったが、将棋大会があると、それに出場しては一等をさらっていった。

坂田の名が巷間ささやかれるようになったのは、明治二六年頃からである。関根金次郎との出会いもこの頃で、西下した関根と対戦して敗れ、以後、打倒関根が坂田の目標になった。

大正二年、坂田は七段になった。「銀が泣いている」という名台詞はこの頃のものとされるが、しかし、それは銀に働き場がなくかわいそうだと言ったのが、後年脚色されたものらしい。四年には、小野五平一二世名人から八段を許され、関根金次郎、井上義雄とともに準名人となった。そして六年、すでに井上を倒していた坂田は、次期名人をめざして関根との対戦にのぞんだのである。

▲大正6年10月22日、東京・芝の竹芝館での対関根戦。猛攻に次ぐ猛攻、関根の入玉を許さず、坂田が連勝する。中央は小野12世名人。 朝日新聞社

坂田が将棋界から絶縁されたのは、大正一四年、後援者の推薦で名人を名乗ったことによる。関根を盟主とする「東京将棋連盟」が、「名人昇格は認めず」という決議をし、昭和一二年まで公式戦参加を拒絶したのである。

公式戦から離れて一三年、再び対局の場に戻った坂田もすでに六八歳になっていた。坂田の将棋について、藤内八段の弟子で坂田の孫弟子にあたる内藤国雄九段は次のように語る。

「それは力将棋です。実戦で鍛え上げた負けない将棋。それに、生命力の強さを感じます。研究熱心で、細心の注意力を持ち、しかもそれをたくみに応用する。文字は読めなかったが、坂田さんが無教養であるはずはありません」

北条秀司作の戯曲「王将」が、直情径行、無学という坂田のイメージを作りあげた。しかし、実際の坂田はまったく違う人物であり、晩年は茶人のような風情だったという。

昭和二一年七月二三日、七六歳で死去。昭和三〇年には、日本将棋連盟から名人位と王将位が追贈されている。

▲150センチたらずの短軀、人並みはずれて大きな頭……ユニークな風貌と、将棋に熱中するあまりの言動が、数々の〝伝説〟を生んだ。

決定的瞬間

願いは“パン・土地・平和！”二月革命から一〇月革命へロシアにソビエト政権誕生

◀「10月革命」最中のペトログラードの街を行く赤衛隊の兵士たち。赤衛隊は、翌年1月にソビエト政権によって創設される赤軍（ソ連邦陸軍の旧称）の母体となった。
ピョートル・アドルフビッチ・オトゥーブ／ノーボスチ通信社

一九一七年一一月、トラックに満載された二〇〇人近くの赤衛隊（労働者の武装部隊）が、銃をかまえて街を移動している。彼らはバラバラの帽子をかぶっているが、革命への“意志”という、目に見えぬ制服を身にまとって、ロシアの首都、二〇〇万都市・ペトログラードの街を疾走していた。

この年、ペトログラードでは、三月（ロシア暦二月）と一一月（同一〇月）に二度の大きな革命が起きた。「二月革命」は、三月八日に繊維工場の婦人労働者が「パンをよこせ」とデモを行い、近隣の労働者が呼応して九万人もの大規模デモにいたったことから始まった。デモは一〇日、一一日と続き、特に一二日には首都に駐屯する兵士たちを巻きこみ、街は完全に統制を失った。軍部は兵士を制御できず、三月一五日、皇帝・ニコライ二世（四八）は退位宣言書に署名をした。

「二月革命」が勃発した背景には、ドイツとの戦争で、国家の経済が解体の危機に瀕していたことがある。一九一四年の開戦時から一六年一一月までに、召集を受けたものは一四二九万人余りにのぼり、農村部は働き手を奪われ、このため穀物の収穫量は戦前の四分の三に減少。主要都市では深刻な食糧不足の状態におちいっていた。一方、前線の兵士は満足な靴も武器も与えられず、将校たちとの対立は深まるばかりで、兵士たちはこれ以上戦うことは不可能だと感じていた。パン、土地、平和、この三つが、労働者・農民・兵士に共通する願いだった。

ケレンスキー（三六）率いる臨時政府は、戦争を継続しながら左右両派の妥協点をさぐるという政治路線をとったが、随所で矛盾を生じ、レーニン（四七）が主張する、「戦争継続の臨時政府を支持しない」「すべての土地の国有化」「権力をソビエトへ」というスローガンに圧倒されていった。

一一月七日午前二時、革命側は武装蜂起を決定。首都守備隊、バルチック艦隊の水兵などを主力に、ただちに停車場、電話局、各省庁など重要拠点を占拠。霧の立ちこめた寒い朝が明けた時には、街はほぼ革命軍に制圧されていた。一方、臨時政府の閣僚たちが詰めていた（ケレンスキー首相は脱出していた）冬宮は、若い士官学校生と婦人部隊が守っていた。包囲する革命側はクロンシュタットの水兵二〇〇〇人と赤衛軍で、夜七時には巡洋艦「アウローラ号」からの艦砲射撃が行われ、包囲網は縮まった。とはいえ、元皇帝の居城である冬宮は部屋数が一五〇〇室もあり、中に入った兵士は迷うものもあり、豪華な調度品を失敬するものもあり、敵味方が遭遇して戦うことはほとんどなく、「今、冬宮はどちらが占拠しているのかね」と閣僚が士官に聞くようなありさまだったという。しかし真夜中の午前二時頃には、兵士たちによって閣僚たちも逮捕されたのである。

同じ頃、ボルシェビキ中央委員会が拠点としていたスモールヌイ女子学院では「第二回・全ロシア・ソビエト大会」が行われていた。レーニンは「労働者・兵士・農民諸君へ」というアピールを出して、ソビエト政権の樹立を宣言。「一〇月革命」はこの時点で山場を越えたが、寝不足のレーニンたちには、共産主義国家の建設と反革命軍との戦争という、次なる闘いが待ち受けていた。

▲1917年11月7日、革命軍の冬宮襲撃を写したとされる写真。その迫真性から、多くの歴史書に再録されたが、実際は3年後の1920年、「10月革命」記念の大規模な街頭祭典の一場面だった。 Ullstein ユニフォトプレス

美の出会い

"東洋美術の粋"を集めたわが国初の「私立美術館」赤坂に大倉集古館、誕生!

▲大正6年、創立当時の大倉集古館全景。美術品・書籍、土地・建物に基金を加えて、その価値は合計853万9000円という巨額にのぼった。中には、朝鮮の慶福宮から移築した建築物なども含まれていた。

大倉文化財団提供(見開き全点)

▲昭和3年に再建された現在の陳列館。設計は、中国・雲崗の石窟寺院を発見した伊東忠太で、屋根の両端に中国の想像上の動物「吻」を配している。

大正六年八月、東京・赤坂葵町(現・港区虎ノ門二丁目)にある大倉邸の一角に、わが国最初の私立美術館、大倉集古館の設立が発表された。四八二五坪の土地に煉瓦造りの第一号館二九六坪、木造の第二号館二四九坪、煉瓦造りの第三号館三一一坪、木造の朝鮮館三九坪、それに付属建物一六九坪が配置され、美術品三六九二点、書籍一万五六〇〇冊がおさめられた美術館である。さらに、維持資金として、五〇万円が寄付されることになった。

創立者は大倉喜八郎(八〇)。渋沢栄一や安田善次郎らと並ぶ日本の財界の基礎を築いた一人で、大倉商事、大倉土木(現・大成建設)、東京電燈(現・東京電力)、帝国ホテルなど数多くの事業を手がけたほか、大倉商業学校(現・東京経済大学)の設立や恩賜財団済生会などの福祉事業にも力を注いだ人物である。これら数多くの業績の中でも、特に財団法人として大倉集古館を設立し、膨大な文化財コレクションを公共のために公開したことは、多くの人々から感謝の念をもって迎えられた。

大倉喜八郎が美術品の収集にのめりこんでいった動機として、いくつかの出来事があげられる。そのひとつに明治維新により、大名・旗本家が家宝や家屋敷を手放し、おびただしい什器や古美術品が街頭に放出されるということがあった。金屏風が焼かれ、金蒔絵が壊されて、純金が取り出されることもあった。続いて維新政府は、仏像を神体とすることを禁止する「神仏判然令」を発布。全国で排仏毀釈運動が起こり、寺院建造物をはじめ、仏像や神像、仏画などが破壊され、あるいは廃品として安価に放出された。目のきく西洋人はこれらの美術品を大量に買い集め、次々に本国へ送った。これをおしんだ大倉は、まだ三〇代の少壮事業家だったが、海外流出を少しでも防ごうと、全力をあげて収集を開始したのである。

もうひとつの動機は、明治三三年に中国で起こった「義和団事件」にあった。この大乱による混乱の中で、美術品の破壊、流出はすさまじいものだった。東洋のためにこれらの美術品はぜひとも保護しなければならないと思い立った大倉は、長崎に着いたロシア船に満載されていた美術品を買い取り、以後、中国や朝鮮、ビルマ、タイ、チベットの美術品収集につとめたのである。

明治三六年七月に刊行された『新撰東京名所図絵』(東陽堂)には、「大倉邸の美術館」という記事が掲載されている。これによると明治三四年には、邸内に三階建て、総坪数三六〇坪の美術館が落成し、三五年から知人の紹介者に対して公開を始めている。日本の美術コレクターの中でも、最も早い公開である。

八〇歳を迎えるにあたり、大倉喜八郎は、これらの美術品の将来について思いをめぐらす。長い年月をかけて集めた美術品も、子孫に美術を愛好する心がなければやがては散逸してしまうだろう。そしてついに「自分の財産より切り離し、財団法人として公共に寄付し、一般社会の人と共に楽しむ」という結論にいたり、「気が清々致しました」(『鶴彦翁回顧録』)と記している。

大倉集古館は、翌大正七年五月一日に開館するが、その五年後の関東大震災で陳列品の多くは灰燼に帰した。幸いにして倉庫内は災厄を逃れたが、喜八郎の落胆ぶりは深かった。しかし彼の初志は堅く、新たに再建資金を寄付して、建築家の伊東忠太に設計を依頼。昭和三年一〇月に中国風様式の新美術館として再度開館されるが、喜八郎は同年四月、開館を待たずに世を去った。

平成一〇年現在、所蔵品は美術品が一七〇〇点余、書籍は三万五五六〇冊にのぼる。そのうち「普賢菩薩騎象像」「古今和歌集序」「随身庭騎絵巻」の三点が国宝に指定されているほか、一二点が重要文化財に、四四点が重要美術品に指定されている。

「喜八郎は帝国ホテルの会長をつとめるかたわら、多くの外国からの賓客を大倉集古館に招き、みずから接待していました。現在も、隣接するホテルオークラの外国人宿泊客や、近隣の大使館・外資系企業に勤務する外国人が多数訪れています」と大倉集古館の理事・金子宏氏が語る。

喜八郎の時代から、外国人貴賓が東洋美術の粋に触れることのできる機会を、この美術館は提供してきたのである。

▲大倉喜八郎。昭和3年に実業人として初の旭日大綬章受章、同年死去。

▶「随身庭騎絵巻」(国宝)。紙本淡彩、二八・六×二三七センチ。随身とは貴人の護衛を任務とする近衛府の官人。鎌倉時代の似絵(にせえ)の名手・藤原信実(のぶざね)が描いたものと言われる。

▲「普賢菩薩騎象像」(国宝)。木造彩色、高さ140.5センチ。平安時代の優れた彫刻であるうえに、全体にほどこされた精巧な装飾美は比類がない。明治33年のパリ万国博覧会にも出品された。

20世紀博物館

横浜人形の家

ビスクドール、御所人形、市松人形……収蔵品九〇〇〇点の迫力と魅惑

神奈川・横浜市

桑原茂夫

◀1870年頃のフランスのビスクドール。ファッションドールと称されているもので、人形が最新のファッションのモデルだった。

横浜人形の家提供

人形には怖いところがある。どんな人形でもそれが人の形をしている限り、生命を吹きこみさえすれば、今にも動き出しそうな雰囲気を持っている。

「横浜人形の家」の学芸員・平元直子さんは、収蔵されている時の人形と展示されている時の人形とでは、表情がまったく違うと言う。そうだろうと思う。展示されて人と接する人形は、生命が吹きこまれるのを待ちわびている気配がある。見る側はその気配を感じて、たじたじとなる。この「横浜人形の家」の入り口まで来ながら、正面奥に展示されている十数点の人形を見て、踵を返してしまう子どもが少なくないのも、そのせいだろう。

そこに展示されているのは、ヨーロッパのアンティークドールや、南米・中近東・アフリカなどの人形、日本の阿波人形や市松人形など、このミュージアムにおさめられているいろいろなジャンルを代表する人形である。その背後には収蔵点数約九〇〇〇点、展示点数約一八〇〇点の人形があるのだから、やはり迫力がある。この導入部を経て中に入ると、世界中から集まった人形たちでにぎやかなスペースが広がる。そこは、民族色豊かな人形のコーナーや、踊りや演奏をテーマにした人形のコーナー、アンティークドールのコーナーなどで構成されている。

中でも、アンティークドールのコーナーに展示された二〇点余りの「ビスクドール」の存在感は、生半可なものではない。一八六〇年代から第一次大戦にかけて、フランスのジュモーをはじめとする一流の工房から送り出された人形で、なめらかな肌と、ガラス製の青い瞳に大きな特徴がある。独特の磁器製法によって生み出された肌で、成形した後に高温で焼き、釉薬が溶けきらないうちに低温でもう一度焼かれている（ちなみに、ビスクというのは、フランス語で二度焼くという意味を持つ）。それで、艶を消したなめらかな肌が得られたのである。

ここには、そのような独特の美しさを持つビスクドールの、いろいろなタイプの人形が一堂に会しており、壮観でさえある。

さてここで上のフロアに上がると、そこには九〇〇〇点余の日本の人形たちが待っている。市松人形、文楽人形、竹田人形、からくり人形、御所人形、生き人形、押絵細工……どれもみごとな出来映えで、その人形ならではの、美しくも妖しい雰囲気の世界を見せてくれる。

ところで、これだけ多くの貴重な人形を集めた「横浜人形の家」は、横浜元町の真珠店創始者・大野英子さんのコレクションから始まっている。大野さんが世界各国から集めた二〇〇〇点の人形が母体となって設立された旧「横浜人形の家」に、やはり市内在住の太田ますいさんの雛人形などのコレクションが加わり、やがて現在の「横浜人形の家」に発展した。いろいろな人のさまざまな思いがこめられた人形ミュージアムだったのである。

▲演奏をテーマにした人形たち。にぎやかな展示空間だが、どこか哀愁を漂わせている。

楠田守

◀横浜人形の家の入り口付近。正面に見えるのが、いろいろなジャンルを代表する人形が展示されている導入部のガラスケース。

▲日本の人形のフロアにある竹田人形（手前）とからくり人形など。いずれもリアルに、しかも精巧に作られていて、人形師たちがそこに生命を吹きこもうとした〝狂気〟さえ感じる。

●横浜人形の家
神奈川県横浜市中区山下町一八
☎〇四五―六七一―九三六一
JR石川町駅から徒歩一三分
開館時間＝一〇時～一七時（七、八月は一八時三〇分まで）
休館日＝月曜日（祝日の場合は火曜）
入館料＝一般三〇〇円

〝官能の踊り子〟から〝世紀の女スパイ〟へ

ドイツ軍「H21号」マタハリ、銃殺！

▲インド風の衣装を身につけたマタハリ。1905年、29歳でデビューした。 Mary Evans Picture Library ユニフォトプレス

エキゾチックな美貌と官能的な踊りでヨーロッパを風靡したマタハリが、一〇月一五日、ドイツのスパイとしてパリ郊外で銃殺された。無実を訴え続け、処刑の瞬間にいたっても毅然とした態度をくずさなかったというその最期は、さながら泥沼化する戦争の美しい生け贄であった。

処刑の銃口を前に〝目隠し〟を拒んだ

「世紀の女スパイ」マタハリ（四一）の銃殺の瞬間が迫っていた。一九一七年一

▶1917年2月17日、逮捕の日のマタハリ。パリでの情事の相手がほとんど軍人であったことが、彼女の立場を不利なものにした。
Popperfoto／ユニフォト・プレス

○月一五日の月曜日、場所はパリ郊外にあるバンセンヌの森にほど近いカポニエールの土手である。

その日の明け方、まだ薄暗いパリ・サンラザール刑務所を出た馬車が刑場に着くや、マタハリは地上に降り立った。目の前には、砲兵隊、騎兵隊、歩兵隊が三列になってコの字形の方陣を作り、その奥には、マタハリを縛りつけるための二㍍ほどの杭が不気味に立っている。かたわらには、棺桶を乗せた有蓋馬車が横づけされていた。

マタハリは、付き添いの神父と医師に「いろいろお世話になりました」と声をかけると、少しもおびえた様子を見せず、兵士たちの中に進んでいった。

部隊長の声が、静寂を突き破った。

「ささげ銃！」

太鼓が鳴り、ラッパが響くと、刑場を遠巻きにした野次馬たちがざわめいた。

マタハリが杭の一〇㍍ほど手前に立つと、一人の男が歩み寄り、淡々と略式の判決文を朗読した。

「第三軍法会議の裁きにより、スパイの罪で死刑に処す」

一二人の銃殺隊が、マタハリの正面に整列する。憲兵の一人が、杭に縛りつけるため、胴に綱を巻こうとする。が、彼女はそれを押しとどめた。次に衛生兵が目隠しの赤い布を持って近づいたが、彼女はそれをも拒否し、神父の最後の説教に静かに聞き入った。そして、指揮官のサーベルが振り上げられると、一二発の銃弾が彼女の身体に撃ちこまれた。

◀大戦中、フランスの対諜報機関の長をつとめたG・ラドゥー。マタハリを死に追いやった。
ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス（下1点とも）

◀マタハリの愛人の一人だった、フランス陸軍大臣・メッシミー将軍。

大スターから一転！「世紀の女スパイ」へ

マタハリは、一八七六年八月七日、オランダ北部、フリースラント州のレーワルデンに生まれた。本名はマルガレーテ・ゲールトライダ・ツェレ。一二歳の時に父親が事業に失敗し、一三歳で両親が別居、一四歳で母親が死ぬと、彼女は父親とも生き別れ、ハーグに住む伯父のもとに身を寄せることになった。

そこで、オランダ植民地軍将校のルドルフ・マックレオド大尉と結婚。彼女が一九歳の時であった。マルガレーテは、その後の数年間、この大尉とオランダ領東インド諸島で暮らすうちに、ある寺院で不思議な儀式に遭遇。その妖艶で官能を揺さぶる神秘的な踊りに心酔し、踊り子への足がかりをつかむことになる。

結婚生活は長くは続かなかった。一九〇二年、オランダに帰国した夫婦は別居し、マルガレーテは一人パリに出る。

一九〇五年、彼女が二九歳の時、パーティーの余興で踊りを披露すると、それがある興行師の目にとまった。そしてその後、彼女は「東洋から来たエキゾチックなダンサー」というふれこみでデビュー。マタハリという名で一躍スターへの道を駆け上っていく。マタハリとは、マレー語で太陽を意味していた。

彼女の活躍の場は、フランス、ドイツ、スペインにまでおよび、その情景を『マタハリ』（中公文庫）の著者、マッシモ・グリッランディは「彼女が芸術家としての天分を披露しに現れると、舞台はインドの寺院に変わった」と記している。

◀1922年にフランスで製作されたマタハリの生涯を描いた映画より、処刑の場面。死後マタハリは、"希代の悪女"の代名詞とされた。
ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス（下2点とも）

▲1917年10月15日、処刑の直前に撮影されたマタハリ最後の写真。

そしてその東洋的な容貌と官能美は、観客を虜にする一方、彼女の空想癖と派手好きも高じ、フランスの貴族社会、外務省、軍当局、各国大使館首脳らの共通の"愛人"として、社交界にも人脈を広げていった。しかし、やがて第一次世界大戦が始まると、マタハリの運命は一転する。その"華麗な"交遊関係は、敵対する各国にとって危険であるとともに、利用価値も高かった。彼女は、複雑なスパイ網の中に巻きこまれていく。

マタハリがドイツのスパイとして逮捕されたのは、一九一七年二月一七日の明け方のことであった。イギリス海軍の諜報機関が、ベルリン—マドリード間の外交通信暗号文を解読し、マタハリが、「諜報部員H21号」というコードネームを持つドイツのスパイであることをつきとめたのである。

彼女は、サンラザールの牢獄に送られ、尋問官の厳しい取り調べを受けたが、スパイ容疑をけっして認めなかった。

マタハリの裁判は一九一七年七月二四日、フランス軍事法廷で開かれた。審理事項は、「戒厳令下のパリ軍事地域に、敵側に有利になる情報を得る目的で入ったか」など八項目におよんだが、マタハリは無実を訴え続けた。

審理の後に裁判官七人の投票が別室で行われ、一時間後に再び入廷、判決文が読み上げられた。

「軍法会議は全員一致で、マルガレーテ・ゲールトライダ・ツェレに銃殺刑を宣告する」

刑の執行は、逮捕からわずか八ヵ月たらず後のことであった。

彼女の銃殺は何を意味していたのか。

「一八七〇年の普仏戦争でフランスが敗れて以来、国内では反独キャンペーンが根づいていました。四年目に突入した戦争は膠着状態、フランスはドイツ憎しのみせしめのため、彼女を銃殺した。それが女性となれば、自国兵士たちの風紀と規律をも正し、緊張をもたらす効果もあったと思います。なにしろマタハリ自身には、スパイであるという状況証拠はありませんでしたから」

こう語るのは、共立女子大学教授の鹿島茂氏である。

ユニフォト・プレス（左1点とも）

▲昭和7年に日本で公開された「マタ・ハリ」より、主演のグレタ・ガルボ。"マタハリ伝説"を決定づけた。

▲1964年製作の映画「マタ・ハリ」より、主演のジャンヌ・モロー。一人の女性の内面の葛藤に焦点をあてている。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▲早すぎた「7月蜂起」(7月16日)ロシアのペトログラードで、第1機関銃連隊が武装デモ。臨時政府打倒を叫んだが、軍隊の支持を得られず鎮圧された。

◀清朝、再びの夢(7月1日)安徽督軍の張勲が、最後の皇帝・溥儀(11＝写真)を擁して北京の紫禁城を占領。しかし、わずか12日でクーデターは失敗した。

「歴史写真」

▲松本連隊、日本アルプス縦断演習(7月26日)飛騨・高山付近の敵を討つという想定で、松本を出発。大雪渓での露営などを体験し、乗鞍岳を踏破。

▶東京YMCAに日本初の室内プール(7月9日)神田青年会館内に20ヤード(約18.3メートル)の温水プールが完成。水泳発展の礎となった。写真は、開場式の立ち泳ぎの演技。

「写真タイムス」

▶女性運転手、初登場(7月14日)女性で初の免許証取得は、東京・小石川の渡辺はまだったが、プロの女性運転手第1号は東京自動車学校卒業の関原いく子。18歳の少女だった。

「歴史写真」

▶横浜開港記念会館オープン(7月1日)安政6年(1859)の開港を記念するこの日、約3年の歳月をかけて完成したネオ・ルネサンス式の公会堂の開館式挙行。

「写真タイムス」

大正6年7月

1(日)●安徽督軍の張勲、宣統帝を擁立(清朝復辟)。
2(月)●日本興銀、財産管理の初の信託預金を開始。
3(火)●旭硝子牧山工場従業員、八時間制要求スト。
4(水)●米高騰、一石二四円台(前年暴落時一〇円台)。
5(木)●憲政会、後藤新平内相不信任案を衆議院に提出(11日否決)。
6(金)●英情報将校「アラビアのロレンス」、アラブ反乱軍を率いてトルコ軍のアカバを占領。
7(土)●衆議院、八四艦隊完成費二億六一五二万円など追加予算可決(14日、貴族院も)。
8(日)●ペスト防止でネズミを買う名古屋市衛生局に、東京で捕えた四万匹強を売った一味、送検。
9(月)●東京YMCA、初の室内温水プールを開場。
10(火)●玄洋社編『玄洋社史』刊行。
11(水)●友愛会、第一回婦人部大会を開催。
12(木)●段祺瑞、紫禁城を攻略(18日、第二次段内閣成立、8月1日、馮国璋が大総統就任)。
13(金)●貴族院、軍事救護法案可決(翌年1月、施行)。
14(土)●警視庁、検閲による一五歳未満禁止映画、男女客席分離など活動写真興行取締規則公布。
15(日)●落雷で東京停電、市内電車も一時ストップ。
16(月)●露、労働者五〇万人が示威行動(七月蜂起、政府が鎮圧、21日ケレンスキー内閣成立)。
17(火)●英王室、敵国・ドイツ風の「ゴータ家」を廃し「ウィンザー家」に改称。
18(水)●連合国公使、中国に参戦を勧告。
19(木)●警視庁留置場の看守が被告女性を凌辱するなど、警察官風紀が大問題、と新聞に。
20(金)●閣議、段内閣に財政援助と対中国政策を決定。●警視庁、不正桝使用の米穀商を一斉捜査。六八三人検挙、不正桝一〇五九個押収。
21(土)●大阪鉄工所因島工場の職工六〇〇〇人、賃上げ要求スト(指導者検挙され、23日就業)。
22(日)●両国の花火見物に船三万隻が出た、と新聞に。
23(月)●生糸暴騰、前場の五〇円高一俵一六〇〇円台。
24(火)●外相、石井特命大使に在米邦人援護を内訓。
25(水)●光学兵器類生産のため日本光学工業、設立。
26(木)●大蔵省編『徳川理財会要』刊行。
27(金)●佐賀県芳谷炭鉱坑夫四〇〇〇人、賃上げスト。
28(土)●農商務省、福島商業会議所設立を認可。
29(日)●富士瓦斯紡績押上工場の職工四〇〇〇人、賃上げ要求スト(8月3日、解決)。
30(月)●明治天皇五周年祭、宮中などで開催。
31(火)●外地統治の中央機関・拓殖局を設置。

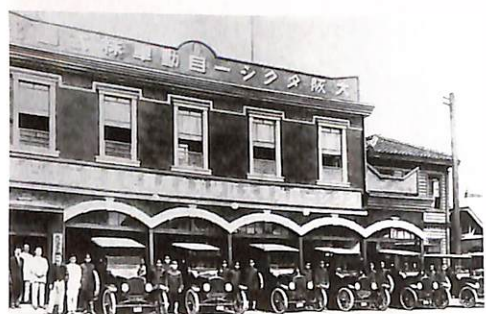
「写真通信」

▲「西原借款」の西原亀三が帰国(8月3日)寺内首相のブレーンとして活躍。日中関係緊密化をはかるため、中国・段祺瑞政権への借款を実現。写真は東京駅から自邸に向かう西原。

「写真タイムス」

▲ハワイの日本移民、母国観光(8月13日)午後4時「春洋丸」で60人余が横浜港到着。ハワイには明治元年に日本移民が到着、明治18～27年には約3万人が政府間契約で入植した。

「写真タイムス」

▲東京帝大夏期講座、婦人にも公開(8月1日)文科が初の試み。若い女性たちの姿が目立ったが、中には前年『貧しき人々の群』を著し、天才少女とうたわれた中条百合子(18)の顔も(写真左端)。

◀大阪に初のタクシー会社、開業(8月)東京から6年遅れ、大阪タクシー自動車株式会社(略称・大タク)がT型フォード7台でスタート。ハイヤーを凌駕した。

「写真タイムス」

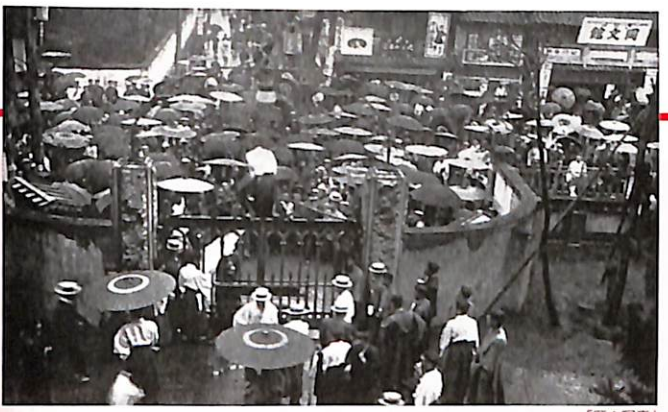
▲准尉候補生入校(8月10日)将校の補充を目的とし、少尉と特務曹長との間に新たな階級を設置。全国から選ばれた287人が士官学校に入学、3ヵ月間学んだ。

「写真タイムス」

▲警視庁、映画興行を規制(8月1日)活動写真興行取締規則を施行、フィルムを観客年齢別に満15歳以上、15歳未満に分け、前者の館は男女別席を設けることなどを定めた。

大正6年8月

1(水)●東京帝大文科の公開講義で女性の聴講を許可。
2(木)●青年詩人の三富朽葉と今井白楊、千葉県犬吠埼で遊泳中に溺死。
3(金)●製靴二社、ロシアと一足九円五〇銭で軍用長靴七〇万足の注文契約。
4(土)●リベリア、ドイツに宣戦布告。
5(日)●日本唯一の植物標本館となる池長研究所、神戸に今秋完成予定、と新聞に。
6(月)●陸軍大異動、第一五師団長・由比光衛中将が近衛師団長に、久邇宮邦彦王がその後任。
7(火)●新潟県沼垂町(現・新潟市)警察、夫婦など四人の殺人犯として小学生四人を逮捕。
8(水)●郵便物の停滞一〇万、中央郵便局員二〇〇人ストの噂に、局長代理が病欠者はいると否定。
9(木)●秋の陸軍演習で統監部に使われる滋賀県彦根町の小学校、夏休み中に早朝の補習と新聞に。
10(金)●陸軍士官学校、新設の准尉候補第一期生入学。
11(土)●東京―鳥羽間、直通電話開通。
12(日)●前年のコレラ患者は一万人、と新聞に。
13(月)●簡易生命保険の積立金運用委員会、設置。
14(火)●北京政府、独・オーストリアに宣戦布告。
15(水)●初の私立美術館、大倉集古館が東京・赤坂に開館(大倉家収集の東洋美術品などを展示)。
16(木)●職工連全盛時代、月収二四〇円、と新聞に。
17(金)●樺太庁、鉄道関係の職員を補充。
18(土)●青少年矯正の施設設置、国立感化院令公布。
19(日)●活動写真取締り強化で東京の常設館、続々休業と新聞に。
20(月)●中国南方派、情勢説明に張継と戴天仇が来日。
21(火)●一月からのスト、約一八〇件、参加者約三万人、と新聞に。
22(水)●大隈重信、胆石症再発で一時重態に。
23(木)●維新政務審査会、米鉄材輸出禁止対策を協議。
24(金)●東京の印刷会社・秀英舎(現・大日本印刷)の職工七〇〇人、スト。
25(土)●中国・広州で非常国会(孫文が段政府に対抗)。
26(日)●奥田義人東京市長(21日没)の市葬実施。
27(月)●堺市東方の仁徳天皇陵、山火事。
28(火)●日中間に善後借款一〇〇〇万円成立。
29(水)●岩崎家、モリソン文庫買収(9月5日、東京本郷に文庫完成、大正13年に東洋文庫と改称)。
30(木)●東京と大阪の株式相場・綿糸相場、暴落。
31(金)●早大、天野学長の任期満了で天野派と高田前学長派の紛擾激化(12月落着、早稲田騒動)。

▼山本鼎(34)、北原白秋の妹と結婚(9月)前年、欧州留学から帰国。児童の自由画教育を進め、版画家・洋画家として活躍するかたわら、小学生を指導した。写真は前列左端・白秋、中央が鼎夫妻、右端・森鴎外。

「歴史写真」

▲早大紛擾(9月12日)高田前学長派と天野現学長派が、次期学長などをめぐって泥沼の対立。ついに、学生1500人が講堂に籠城し全学ストに突入。22日、維持員刷新が決まり、やっと授業が再開。

永井永光提供(2点とも)

▼東日本に大暴風雨(9月30日)死者・行方不明1300人、家屋倒壊・流失4万戸以上の大惨事となり、米・食料品が暴騰。写真は10月、東京市が行った白米の安売り。

▲永井荷風(37)、「断腸亭日乗」起筆(9月16日)死の前日、昭和34年4月29日まで、42年間にわたって綴られた日記は、東京大空襲など国民的体験も写し残した。

「写真通信」

▲モリソン文庫、設立(9月5日)北京在住の英人で、総統府顧問のモリソンが集めた東アジア関係文献を、岩崎家が買収。現在の東洋文庫。写真は26日、横浜に到着した文献。

三越提供

▲大阪・三越、新館落成(9月25日)ルネサンス式外観、鉄筋コンクリート造り、地下1階・地上7階。大阪最大規模と言われたが、翌月1日開店すると大混雑、閉店時間を早めた。

「歴史写真」

大正6年9月

1(土)●農商務省、米穀や鉄、石炭、綿糸布などの買い占めや売りおしみを処罰する暴利取締令公布。
2(日)●物価高騰で学校の寄宿舎でも食費値上げ、高等師範では一円、と新聞に。
3(月)●東京府税制委員会、酌婦税・謡曲能楽営業税・骨董市場税などの新税賦課を決議。
4(火)●小石川砲兵工廠、製図職工の増給要求、年末賞与の増額要求を秘密裡に鎮撫、と新聞に。
5(水)●農商務省、戦時中工業原料輸出取締の件公布。
6(木)●石井遣米特命大使、米国務長官と第一回会見。
7(金)●米国、金銀輸出禁止令公布。
8(土)●連合国、中国の参戦の代償として「義和団事件」(明治33年)賠償金支払い延期を承認。
9(日)●第四回二科展、上野・竹之台陳列館で開催。
10(月)●孫文、大元帥に就任し、広東軍政府樹立宣言。
11(火)●ゴルフが皇室遊戯に選ばれ、三皇子は新宿御苑・赤坂御所で練習を開始、と新聞に。
12(水)●大蔵省、金貨幣・金地金輸出取締令公布(事実上の金本位制停止、6日、銀も同様)。
13(木)●内閣、外国経済の調査・協力にあたる特派財政経済委員会を設置(目賀田種太郎委員長)。
14(金)●陸軍騎兵実施学校、陸軍騎兵学校と改称。
15(土)●正貨保有高、貿易好調で一〇億円の大台突破。
16(日)●西条線、川之江—伊予三島間が開通。
17(月)●早稲田大、鳶職に警護させて教授会開催。
18(火)●東京市会、通行税廃止を議長に建議。
19(水)●政府、次議会に馬券復活案を提出、と新聞に。
20(木)●化学工業博覧会、東京・上野公園で開幕。
21(金)●臨時教育会議、内閣の諮問機関として設置。
22(土)●拓殖調査委員会、首相官邸で初会議。
23(日)●栃木県金丸原で工兵特別演習。
24(月)●前年の自動車などの衝突事故による負傷者は三六三九人で年々増加の傾向、と新聞に。
25(火)●福岡地裁、八幡製鉄所書記を収賄容疑で逮捕(大瀆職事件に発展、起訴一〇四人、自殺三人)。
26(水)●日本郵船「常陸丸」、コロンボ西南沖でドイツ潜水艦に拿捕される(11月8日、撃沈)。
27(木)●四・五㌫利つき英貨公債、五〇〇万円買入れを告示、合計一四一五万円に。
28(金)●日本興業・朝鮮・台湾の三行、中国交通銀行に二〇〇〇万円の第二次借款供与を契約。
29(土)●戦時の強制輸送・運賃制限の船舶管理令公布。
30(日)●東日本で大暴風雨(風速四三㍍、死者・行方不明一三〇〇人、倒壊・流失四万三〇〇〇戸)。

吉野孝雄提供

証言・あの日この日
宮武外骨(50)

8月13日(月) 〈さて大会は禁止される、禁止の広告は阻止される、これでは今夜日比谷公園へ集つた連中は、主催者が出ないのを怪しむであらう、因つて「今夜の大会は其筋より禁止さる」とでも書いた貼紙をさせて下さるかと、谷中署を通じて警視庁へ照会すると、それもイケナイと云ふ、さらば今夕宮武外骨自身が出張して会衆に禁止の報告をすると述べると、小村高山の両刑事が予の宅へ来て、今日は一切外出しないで下さい、若し強いて外出するならば、お気の毒ながら拘留しろと警視庁からの命令ですと云ふ〉(宮武外骨「米価暴騰問題の大会事件」)

この年、米価が暴騰し各地に暴動が発生した。反骨のジャーナリスト・宮武外骨は、日比谷公園での米価暴騰問題の市民大会を企画、「朝日新聞」に広告を出すが、当局に危険人物として厳しく監視される。(山崎行太郎)

「歴史写真」

▲好況で小額紙幣発行(10月30日)10銭・20銭・50銭発行の緊急勅令を公布。鋳造が追いつかず、両替料を取られるほど硬貨が払底し、釣銭が不足。12月までに3000万円分が流通した。

◀朝倉文夫(34)、警視庁ににらまれる(10月14日)文展に出品した裸体像「時の流れ」に撤去要請。結局、特別室入りとなり、17日の一般公開を迎えた。文展7回連続入選後、審査員をつとめる彫刻界の寵児だった。

「写真通信」

▲全国小学校女教員大会開催(10月20日)帝国教育会が主催。会長・澤柳政太郎臨席のもと、東京・一ツ橋で157人が女性教員の問題点などを討議。写真は23日、宮城拝観の教員たち。

▶米国に財政経済委員を特派(10月15日)産業界・金融界の期待を担い、米国実業界を視察。写真は出発を控え、大蔵省から参内に向かう一行。中央は後に枢密顧問官となる目賀田種太郎委員長(64)。

◀東京歌劇座、旗揚げ(10月23日)浅草初のオペラ常設館・日本館で佐々紅華、石井漠、沢モリノらが、オペレッタ「カフェーの夜」(写真)などを上演し、連日、大盛況だった。

「写真通信」

大正6年10月

1(月)●政務担当の青島守備軍民政部条例、公布。
2(火)●臨時教育会議、首相官邸で始まる(25日、教育費国庫支出を可決)。
3(水)●外交調査会、条件つきで北京政府に兵器売り渡しを決議(4日、政府も決定)。
4(木)●風水害のため鉄道貨物が停滞し物価暴騰、日用品や復旧材料を東京に急送中、と新聞に。
5(金)●大正改訳『新約聖書』刊行。
6(土)●三島海雲、乳酸菌飲料の工業化に成功(ラクトーを設立しカルピスを発売)。
7(日)●孫文、馮・段政府を否認、北伐を命令。
●東京市、一人一升に限り二五銭で白米を廉売。
8(月)●三菱造船、設立。
9(火)●大阪の坂田三吉と東京の関根金次郎、両将棋八段が東京で対局二〇時間、坂田の勝利。
10(水)●在日中国人留学生、石井遣米特命大使の演説を祖国侮辱と憤慨、中国公使を問責。
11(木)●古市公威、理化学研究所所長に決定。
12(金)●株価大暴落、米国の対交戦国通商法(6日制定)の輸出入制限が原因(15日、24日にも大暴落)。
13(土)●農商務省、民間発明家を助成する規則公布。
14(日)●新潟港建設の起工式、開催。
15(月)●友愛会東京印刷工組合結成(初の産別組合)。
●舞踏家・マタハリ、独スパイとして銃殺。
16(火)●第一一回文展、上野・竹之台陳列館で開催。
17(水)●北白川宮成久夫妻、台湾視察に出発。
18(木)●横浜護謨製造、米企業と折半出資で設立。
19(金)●逓信省電気試験所、船舶の無線と陸上の電話との接続実験に成功と発表。
20(土)●帝国教育会、第一回全国小学校女教員大会。
21(日)●加藤高明、憲政関西大会で内閣攻撃の演説。
22(月)●朝鮮銀行、青島支店を開業。
23(火)●石井漠らの東京歌劇座、浅草・日本館で旗揚げ。
24(水)●ロシア、日露通商航海条約廃棄を通告。
25(木)●ローランド・モーリス米駐日新大使、来日。
26(金)●全国商業会議所連合会、「日支博」開催を可決。
27(土)●登記手続きなどを改正した産業組合法公布。
28(日)●乳児死亡率が年々増加(明治21年の一一㌫から現在一六㌫)している、と新聞に。
29(月)●大阪・淀川の氾濫に悩む農民約一五〇人、水のはけ口を求めて箕面電車の線路を破壊。
30(火)●好況で補助貨欠乏、小額紙幣(五〇銭、二〇銭、一〇銭)の発行公布(11月1日から)。
31(水)●英軍、九月中に独機二七四機を撃墜、と新聞に。

「写真通信」

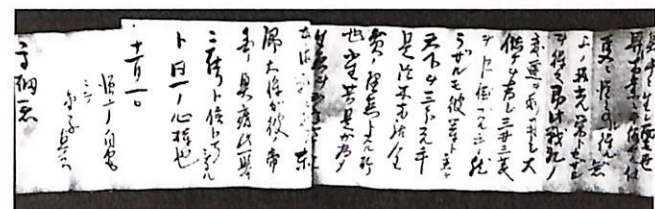
▲**東京・両国国技館焼失（11月29日）**深夜1時30分、菊人形展出店の残り火の不始末から炎上、名物の大鉄傘、円形の大建築が崩壊。隣接の回向院も燃えた。

「イリュストラシオン」

▲**クレマンソー首相就任（11月16日）**ポアンカレ大統領の期待にこたえ、戦争非協力者を弾圧するなど、「鉄腕」を発揮。フランスを勝利に導いた。写真右端。

「歴史写真」

▲**石井・ランシング協定調印（11月2日）**「対華21ヵ条要求」に関し、日米代表が交換公文に署名。米側は日本の野心をおさえ、日本側は対中国の権益保護に成功。石井(左)とランシング(中)。

テイジン提供

石川島播磨重工業提供

▲▶**金子直吉「天下三分の宣言」（11月1日）**鈴木商店を大商社にした得意を、ロンドン支店長に表明。6メートルを超す書簡に「三井・三菱を圧倒するか天下を三分するか」と記した。

「写真通信」

◀**川上音二郎七回忌（11月11日）**東京・芝高輪の泉岳寺に、近親者や元門弟たちが多数集まり故人を偲んだ。音二郎は妻・貞奴とともに新派劇を興したが、志なかばで病没。

「写真通信」

▲**「黒船」の生き残り来日（11月17日）**17歳の時にペリー提督に随行したハーデー元水兵が、昔の水兵服姿で横浜港到着（写真）。翌日、提督記念碑のある久里浜に向かった。

大正6年11月

1（木）●三菱製鉄と東洋製鉄、設立。
2（金）●日米、中国に関する公文交換（石井・ランシング協定。日本の権益を認める）。
3（土）●東京・日比谷公園で菊花大会、開催。
4（日）●東京・浅草の聖天町の寺部小学校、寺子屋に端を発して創立一〇〇周年祝賀会。
5（月）●豊橋一五師団、演習の留守に火薬庫爆発。
6（火）●演習参加の陸軍飛行隊一二機、強風のためすべてが不時着または墜落。
7（水）●ロシアでボルシェビキ武装蜂起、ソビエト政府樹立（「一〇月革命」）。
8（木）●日本輸出莫大小同業組合連合会、設立。
9（金）●汽船「慶津丸」「天海丸」に無線設置許可。
10（土）●扶桑海上保険（現・住友海上火災）、設立。
11（日）●大阪砲兵工廠名古屋兵器製作所、開所式。
12（月）●伊東巳代治、外交調査会で中東鉄道をシベリア鉄道まで延長し日本で管理する案を要請。
13（火）●各船舶会社、外国人船長に代わって日本人船長の時代に、と新聞に。
14（水）●鶴見の浅野造船所職工六〇〇〇人、新造船「白鹿丸」の礼金分配の不満から暴動。
15（木）●東京市電の一年間の事故、衝突そのほか一六五二件、死傷者一二二六人、と新聞に。
16（金）●仏、クレマンソー内閣発足。
17（土）●政府、米国との鉄輸出解禁交渉の不調を発表。
18（日）●ペリーと日本へ来た米水兵・ハーデー、当時の服装で再来日し、神奈川県久里浜を訪問。
19（月）●関東連合教育会、教員の海外視察など決定。
20（火）●政府、二五師団八八艦隊の新国防方針を発表。
21（水）●露外相・トロツキー、連合国に対独講和提案。
22（木）●国会議事堂の設計を一般から公募、と新聞に。
23（金）●五十銭札の偽造犯人、東京・木場で逮捕。
24（土）●東京市の人口、六〇万一七七一世帯、二三八万一四二二人（学童二五万五〇九一人）と発表。
25（日）●宇都宮市で大相撲巡業、会場の桟敷が壊れ落ち、力士を含む七八人が重軽傷。
26（月）●中将湯の新聞広告に無断で名前を使われたと告訴の佐伯博士の初公判、東京区裁で開廷。
27（火）●海外興業、五つの移民会社合併で設立と発表。
28（水）●関東州・満鉄付属地における朝鮮銀行券の通用を公布。
29（木）●東京・両国の国技館、全焼。回向院も類焼。
30（金）●今年の年賀郵便物、東京中央郵便局で前年の二二四万から二割増の見こみ、と新聞に。

「写真タイムス」

▲**山田耕筰（31）、渡米（12月17日）**自作の管弦楽曲、オペラなどの評価を問うため。15日、東京での送別会で、小山内薫らが祝辞を述べ、山田が別れの演奏をした。写真は翌年、カーネギーホールで初指揮の頃。

◀**赤羽飛行場開場（12月1日）**飛行機の製作、飛行術の教授などを掲げ、岸一太が設立。整地された約6万坪に複葉機、気球などを展示。格納庫で祝典を挙行。

Imperial War Museum／ユニフォト・プレス

▲**英軍、エルサレム占領（12月9日）**ユダヤ系将軍・アレンビが旧市街に入城、オスマン帝国の支配に終止符を打った。英国は前月、「バルフォア宣言」を発し、ユダヤ人のパレスチナ国家建設を確約していた。

▼**「船成金」の朝鮮虎狩り隊、凱旋（12月10日）**海運業で一躍大金持ちになった山本唯三郎（写真左端）らが、虎、豹、熊などの獲物を抱え、東京駅に到着。

「写真タイムス」

▶**横浜大桟橋落成（12月2日）**明治32年起工の大事業がやっと完成。長さ578メートル、幅19メートル、2万トン級の船舶4隻を係留できた。

「写真タイムス」

◀**英「バルフォア宣言」発表（11月2日）**英外相・バルフォアがシオニスト運動指導者・ワイツマン（写真）と秘密協議。パレスチナ内のユダヤ人国家建設を、英国が支持するという内容だった。

Popperfoto ユニフォト・プレス

大正6年12月

1（土）●タバコ値上げ。平均一八㌫、「敷島」一二銭など。
●陸軍省、各歩兵連隊に独立機関銃隊を設置。
2（日）●フランス、パリ連合国会議で日米連合軍によるシベリア鉄道占領案を提案。
●横浜港、大桟橋が完成。
3（月）●労学会設立委員会、会則や役員を決定。
4（火）●早大を辞職の波多野精一、京都帝大教授に。
5（水）●徳川家達を引き続き貴族院議長に任命。
6（木）●堺利彦ら、翌年の議会への普選請願と普選演説会開催を協議、この日の演説会は中止。
7（金）●野田醤油（現・キッコーマン）、設立。
8（土）●加入者ふえ電話交換への苦情絶えぬと新聞に。
9（日）●横浜船渠会社鉄船部八〇〇人、三割賃上げなど要求しストに突入（71日間）。
●岩波書店、『漱石全集』刊行。
10（月）●中島知久平、群馬県太田町（現・太田市）に飛行機研究所を設立。
11（火）●東京・浅草で馬車馬が暴れて荷車を壊し、轅棒をひきずって逸走、数人に重軽傷を負わせる。
12（水）●仏・モダーヌで鉄道脱線事故、死者五四三人。史上最大最悪の鉄道事故となる。
13（木）●八丈島で山崩れ、一二棟倒壊、死者一七人。
14（金）●邦人母国観光団六〇人、米国から来日。
15（土）●戦艦「伊勢」、神戸の川崎造船所で竣工。
16（日）●明治天皇宝庫造営を予算化、と新聞に。
17（月）●山田耕筰、作品発表会開催のため渡米。
18（火）●セノポール駐日ルーマニア大使、東京で病死。
19（水）●好景気の年末、人手不足の郵便局や鉄道では学生を動員、と新聞に。
20（木）●反革命鎮圧の全露非常委員会（チェカ）創設。
21（金）●福岡県の桐野炭坑でガス爆発、死者三六一人。
22（土）●元老会議、一七日の外交調査会でシベリア出兵を主張した本野一郎外相を呼び開催。
23（日）●開戦当時と比べて物価は七割高騰し、月給取りは大減俸と同じこと、と新聞に。
24（月）●大蔵省、銀貨図案募集の当選者三人を発表。
25（火）●東京・深川区における浅野セメントの降灰問題、区への寄付金などで解決。
26（水）●神奈川県三浦の三崎町で火災、三六〇戸類焼。
27（木）●北陸で大雪、富山市役所が積雪の重さで倒壊。
28（金）●日本郵船、海軍省の命令で南洋航路を開設。
29（土）●靖国神社境内に小屋がけの相撲場、落成式。
30（日）●外務省、日伊通商条約の一年間継続を告示。
31（月）●米大統領、独の東方進出には日米提携と談話。

我楽多市

流行語

新米巡査はこわがり屋

「ガチャガチャ」。新米巡査のこと。大戦景気で警察官の志望者が減少し、警察官にはふさわしくないこわがり屋がふえた。彼らは若者がデートしている公園の暗がりや、不良がたむろする繁華街を通る時は、わざとサーベルをガチャガチャといわせたところから、若者たちは新米巡査のことを嘲笑をこめて、こう呼んだ。

「自然主義」。公園や川べりなど野外でのデート。学生からサラリーマン、カフェーの女給にまで広く使われた。

「長松」。〝ちょうまつ〟と読み、田舎者のこと。本来は犯罪者の隠語だが、好景気で田舎から東京見物に来る人がふえたため、一般に広まった。

「新技巧派」。自然主義文学と対立する新しい文学流派で、芥川龍之介はその代表とされる。自然主義が人生を客観的、ありのままに描こうとしたのに対し、新技巧派は現実を主観的に見て、技巧によって人生の真髄を表現しようとした。

▲双葉保育院、桜楓会託児所、王子保育園などの子ども46人が、京成電車の本所押上から千葉県八幡の海水浴場へ避暑旅行に出発。8月10日の朝。

「写真タイムス」

CM100年

新聞CM「生地まで白くなるクラブ白粉――クラブ白粉」（中山太陽堂、現・クラブコスメチックス）

▲美人になる近道として、化粧の順序を〝鉄道式〟で表し、〝クラブ式〟と呼ばれた。

▲日本びいき米国人、パーカー夫人が一〇月一六日、来日。右上は自署。

「写真通信」

流行

贈答は〝商品券〟で牛乳切手、卵切手人気

最近、贈答品として牛乳切手、卵切手というのができ、この切手を店へ持っていけば現品と取り換えてくれるというので、階級を選ばない気のきいた贈り物として人気を集めている。特に都会の中流以上の家庭では、かさばって保存のきかないものをやり取りするよりも、こうした形での贈答が一般化してきた。

（「東京朝日新聞」七月二三日）

珍商売

値段は一貫目五〇銭月遅れの〝新雑誌屋〟

東京・飯田町に月遅れの雑誌を専門に扱う通販業者が誕生した。その名を朝生社と言って、各雑誌社発行の残本を引き取って、一貫（三・七五キロ）単位で販売しようというのである。一貫目の雑誌は二〇冊から三〇冊もあり、その中には修養文学から婦人向け、子ども向け、娯楽雑誌などいろんな雑誌が含まれる。これが五〇銭（別に送料一〇銭）で購入できるというのだから、一冊の値段で家族全員の読みたい雑誌が、四、五冊ずつ手に入るわけである。もっとほしい人には、五貫目、一〇貫目の販売も行っている。

（「日本一」四月号）

▲岡本一平画「簡易避暑法」。この頃、避暑旅行に出かける人が増加。旅行に行けない庶民の珍避暑法を描いた。「漫画」8月号所収。

はやり歌

コロッケの唄

作詞・作曲 益田太郎冠者

ワイフ貰って　嬉しかったが
何時も出てくる
副食物がコロッケ　コロッケ
今日もコロッケ　明日もコロッケ
これじゃ年がら年中コロッケ
アハハ　アハハハ　こりゃ可笑し

晦日近くに　財布拾って
開けて見たらば
金貨がザックザク　ザックザク
株を買おうか　地所を買おうか
思案最中に眼が覚めた
アハハ　アハハハ　こりゃ可笑し

芸者が嫌なら　身受けしてやろ
帯も買ってやろ
ダイヤもやろう　やろう
今日は三越　明日は帝劇
いうて呉れるような客がない
アハハ　アハハハ　こりゃ可笑し

亭主貰って　嬉しかったが
何時も出て行っちゃ
滅多に帰らない　帰らない
今日も帰らない　明日も帰らない
これじゃ年中留守居番
アハハ　アハハハ　こりゃ可笑し

▶この年上演された喜劇「ドッチャダンネ」の劇中歌。劇作家・益田太郎冠者（写真）が作詞・作曲をし、大流行した。

にくいあん畜生

作詞 北原白秋　作曲 中山晋平

にくいあん畜生はおしゃれな女子
おしゃれ浮気で薄情もの　よ
どんな男にも好かれて好いて
飽いて別れりゃ知らぬ顔
飽いて別れりゃ別りょとままよ
外に女子が無いじゃなし　よ
何をくよくよ明日もござる
男後生楽　まだできる
男後生楽　踊らぬ奴は
やもめ男か　いくじなし　よ
何をくよくよ　踊りさえおどりゃ
すぐに女子も来てたかる

▲やはりこの年に上演されたトルストイ原作の「生ける屍」の劇中歌。写真はその舞台から、マーシャ役の松井須磨子（右）と中井哲。

▲2月初旬に見られた氷の切り出し風景。東京府下の高井戸村では、日蔭の溜池を利用した氷作りが行われていた。

「写真タイムス」

三面記事

初の女性有権者は大富豪

〔富山発〕富山県には日本最初の女性有権者がいる。その女性は、東岩瀬町（現・富山市）の富豪、米田サト子刀自である。

わが国の女性には選挙権がないと一般には思われているが、これは大きな間違いで、町村制法の第七条や一二条、二四条などでは納税額そのほかの資格さえ具備すれば、女性でも立派に有権者になりうることが定められている。

サト子刀自は富山県第一の地主として石高約四〇〇〇石におよび、同町の町税の納付額も八〇戸分を納めるなど、必要な条件に適合している。米田家の大財産がサト子刀自の所有に帰してから十数年に達し、選挙権も早くから与えられていたが、これまで発見されていなかった。しかるに前回の総選挙で発見され、貴重なる一票を委任状によって行使した。実にサト子刀自こそ日本最初、そして富山県唯一の女性有権者である。

（「富山日報」四月一四日）

賭博

お不動様が泣いている成田山で僧侶の大賭博

〔千葉発〕千葉県警成田分署では二一日、署員全員を召集して成田山新勝寺内で行われていた賭博の手入れを行い、院代以下の僧侶三十余人を検挙した。

新勝寺といえば各府県に十数万の信徒を有し、関東随一の霊場と称せられているが、昨今の僧侶は心驕り、寺院内で賭博を開帳しつつありとの風説は数年前から流布されていた。しかし成田町の繁栄は新勝寺によって維持されているため、町民は見て見ぬふりをし、かつては明治天皇の行在所にあてられたこともあって、警察でも手入れをできずにいたが、新任の篠崎分署長の英断で検挙したものである。調べによると、一回の賭け金が一〇〇〇円以上という大賭博を、数年前から毎晩のように開帳していたという。

（「東京朝日新聞」二月二三日）

社会

不正退治はネズミの力で

東京・十条にある陸軍砲兵工廠では、兵器の製造などに使用するため、必要に応じて大量のコルクを入札によって購入していたが、不良製品の続出に頭を悩ましていた。同廠ではその原因に長い間気づかなかったが、今年になってようやく発見した。奸商どもは腐敗したコルクを安く買い入れ、入札に当たると腐敗した箇所を飯粒で埋めて納入していたのだ。

それからというものは、同廠では商人がコルクを倉庫に納入した後、数十匹のネズミを倉庫内に放つことにした。ネズミは飯粒だけをかじってボロボロにしてしまうので、一週間も経つと、不良品はたちどころに発見できるという。

（「漫画」六月号）

▶日本人としては初のオート・ポロ競技会が、東京・芝公園運動場で開催。七月。

「写真タイムス」

◀立体眼鏡の玩具。レンズの入った双眼で、汽車や船や歌舞伎座の写真を見ると、写真が浮き上がって見えた。

杉山芳之助・平凡社提供

この年の初もの

初の穴あき硬貨五銭玉（白銅）登場

●商業美術　大阪毎日新聞社が「商業美術振興」のため作品募集。これが「商業美術」という言葉が使われた最初。

●和服ショー　東京・三越呉服店が開催。モデルは新橋芸者。

●写真乾板　帝室技芸員で、写真界の長老の小川一真が、国産初の写真乾板を製作。

●栄養講習会　私立栄養研究所が開催。受講者は医師一〇人、高等師範学校教師二人。以降、ヨーロッパでも行われるようになる。

世界の動き

レーニン、「封印列車」で帰国！

亡命先のスイスから革命ただ中のロシアへ
「敵国ドイツのスパイ」との汚名も覚悟

皇帝の専制支配が動揺し、革命の気運が高まっていたロシアに、ボルシェビキのリーダーであるレーニンが、亡命先のスイスから「封印列車」でドイツ領内を通過して帰国した。レーニンは、「敵国ドイツのスパイ」との指弾を受ける危険をあえて冒し、革命運動の指導者として最前線に立ったのである。

▲1917年4月、「封印列車」でドイツを抜け、スウェーデンのストックホルムから帰国の途につくレーニン（傘を手にしている）。 ノーボスチ通信社（見開き全点）

群衆は誰もレーニンの素顔を知らなかった！

一九一七年四月一六日、ロシアの首都・ペトログラードでは、ボルシェビキ（社会民主労働党「多数派」）がレーニン（四七＝本名、ウラジーミル・イリイチ・ウリヤーノフ）の帰国を皆で迎えようというプラカードを作り、市内を練り歩いた。

レーニンは、一九〇〇年以来、ほとんど海外で亡命生活を送っていたが、スイス・チューリヒで、皇帝・ニコライ二世（四八）が退位した「二月革命」の報を聞き、急遽帰国したのである。フィンランド駅前広場は、歓迎の人で埋まっていた。集まった群衆は誰も、レーニンの顔を知らなかった。だから、拍手が湧き、帽子がほうり上げられ、大騒ぎが始まり、一人の男が装甲車の砲台の上に立った時、民衆は、初めてこの男が噂のレーニンだと知ったのである。

レーニンは紅いリボンテープをつけ、さびのきいた声で演説を始めた。

「プロレタリアートの自覚と組織が不十分だったために、権力をブルジョアジーに渡してしまった革命の第一段階から、プロレタリアートと貧農の手中に権力を奪取する革命の第二段階へ突き進め。すべての権力をソビエトへ！」

これは、後に「プラウダ」に発表され、「四月テーゼ」と呼ばれるようになる。

▲ロシアの秘密警察がファイルしていた、1893年当時のレーニンの顔写真。

▲同じく、レーニンの妻・クループスカヤ。二人はシベリアの流刑地で結婚した。

三年前の一九一四年、ドイツなどを相手に第一次世界大戦に突入したロシアは、疲弊しきっていた。農村では一揆が常態化し、他方、工場では大規模なストライキが続発していた。これに対しツァー（皇帝）政府は、徹底した弾圧を加えた。

ロシアは内に脆弱な支配体制と、革命の火種を抱えつつ、四年にもわたる第一次世界大戦を継続した。危険な賭けだが、排外的敵愾心をあおり、危機の乗り切りを策したのだった。だが、ロシア軍は丸腰の兵士が三割にも達するありさまで、当然ながら敗北が続き、開戦から三年間で戦死者は五三万人、負傷者・捕虜・行方不明者は四八三万人にものぼった。戦争とツァーを呪う国民の声は、日増しに高くなっていった。

そして、ロマノフ王朝崩壊後、メンシェビキ（社会民主労働党「少数派」）やエスエル（社会革命党）などが入閣した臨時政府もまた、「祖国防衛」と称して戦争を継続した。穏健な社会主義者であるアレクサンドル・ケレンスキー（三六）率いる臨時政府への、民衆の失望感は募るばかりだった。

たぐいまれな革命家が“負の歴史”の導火線に

レーニンは、帰国にあたり当初、英仏経由で、海路ロシアに戻る計画だった。しかし、英仏は、ロシアを連合国から戦線離脱させかねない革命家の帰国を許さなかった。となると、敵国のドイツを通過する以外にない。英仏とは逆に、ドイツにとってレーニンの帰国は、有効な後方攪乱策である。レーニンはドイツ当局と交渉し、「封印列車」で約三〇人のロシア人亡命者とドイツ領をひた走った。この列車は捕虜交換を名目に、ドイツ領内では車内の治外法権が認められ、代わりに扉も開けず、下車もしないという約束で運転された。そのため俗に「封印列車」と言われた。敵国を無事に通過しての帰国は、「ドイツのスパイ」と疑われても仕方なかった。それでも、レーニンは帰国が先決と決意したのである。

レーニンの帰国したロシアは、一方で臨時政府が、他方で、兵士代表を含む「労

▲北欧からの直通列車が発着するフィンランド駅で、非合法文書を捜索する帝政ロシアの官憲。オフラナと呼ばれた。

外から見たNIPPON

若き日の周恩来が日本留学で養った〝勉強の眼〟

佐伯　修

中国共産党のリーダーの一人で、中華人民共和国の初代国務院総理となった周恩来（一八九八〜一九七六）は、この年九月、高等教育を受けるため来日した。だが、当時の日中関係は、日本の「対華二一ヵ条要求」（大正四年）以来の大陸政策によってぎくしゃくしており、中国人留学生の間にも帰国の動きなどの動揺が走っていた。

その結果、周青年も、当初志望していた旧制高校などの受験にあまり身を入れることもできぬまま、大正八年四月に、天津の南開学校大学部で学ぶために帰国、そこで「五・四運動」の渦中に身を投じることになる。

このように、中途半端な形で終わった日本留学について、周は「得難い機会を与えられながら、何も学びませんでした」（西河毅『周恩来の道』）と控え目な語り方しかしていない。たしかに、この留学は、彼にとって、後年の、マルクス主義者としての第一歩を踏み出したフランス留学に比較して、決定的な意味に乏しかったであろう。とは言っても、実際には、彼は日本で少しでも多くの事物を吸収しようと真剣に努力した。仏教の「無生」主義に傾倒したり、河上肇の論文でマルクス主義思想に接したのも、そのひとつである。来日翌年の大正七年の日記に、周は記している。

「日本に来て以来、何事をも勉強の眼で見ることができることがわかった。日本人の一挙一動、あらゆることにわれわれ留学しているものは注意すべきである。新聞を読むのに毎日一時間あまりかかる。光陰貴ぶべしというが、この国の国情はやはり知るべきである」

「将来、欧州大戦が終われば、ドイツの軍国主義は保とうとしてもおそらく保てなくなるだろうし、日本の軍国主義もどこからかやられてしまうかもしれない。軍国主義は二〇世紀には絶対に生き残っていくことはできないと思う。以前、『軍国』『賢人政治』というこの二つの主義で中国を救えると考えていたのは、いま考えてみると実に大間違いだった」（金冲及主編、狭間直樹監訳『周恩来伝一八九八—一九四九』上巻より）

また、列車でたまたま留学生・周青年と乗り合わせた、教師の元木省吾は、周の「日本語はなかなかうまいものだが、わからない点もあるからして、英語で話せぬかといわれてブロークンな英語で語り、ついには帳面に筆問答となって」、「いろいろ日本文学のこと、支那文学のことを話し」（『日本人の中の周恩来』より）たという。

▲来日してまもない、大正7年初めの周。

働者代表ソビエト臨時執行委員会」が並立する、「二重権力」状態のただ中だった。しかも当初のソビエト（職場や部隊ごとに組織された直接参加の評議会）は、メンシェビキ、エスエルが主導権を握り、ボルシェビキは少数派だった。それどころか、レーニンはボルシェビキ内ですら少数派だった。「四月テーゼ」についても、ボルシェビキのカーメネフは、「長期亡命していたレーニンの、ロシアの実状を知らない主張」と評した。そして一時、テーゼは大差で否決されてもいる。

しかし、レーニンは、夜を日についで各所の説得にあたり、次第に多数派にのし上がっていく。「大戦遂行はブルジョアの利益のためのもの」との主張は、厭戦ムードの兵士に急速に浸透した。スターリンが唱えた臨時政府の条件つき支持に対しては、ブルジョア革命の範囲に押しとどめようとするケレンスキーらを利するだけ、あくまで末端の労農兵によって直接組織されるソビエトが全権力を握る以外ない、と説いてまわった。その一方で、ただちに蜂起すべきというアナーキストらの暴走を思いとどまらせるために、相当なエネルギーをさいてもいた。レーニンは、しばしば激昂し、後になって「興奮しすぎてすまなかった」と謝罪することも再三だった。

左右の挟撃の中で、レーニンは、レフ・トロッキー（三八）らとともに、冷徹なリアリストとして、権力奪取に向けて綱渡りを繰り返し、「一〇月革命」の瞬間を迎える。一九一七年一一月七日、ボルシェビキは蜂起し、翌日未明には首都中枢を制圧して臨時政府の閣僚を逮捕、世界初の社会主義革命が成功したのである。社会主義政権の誕生に世界は驚愕した。しかし、革命に成功したボルシェビキは、その後も革命政府に敵対する列強の干渉と戦わなければならなかった。

ロシア革命にはたしたレーニンの役割を、千葉商大の高橋正教授はこう語る。

「レーニンはたぐいまれな革命家だった。だがその一方で、民主集中制や、戦時共産主義など画一的な中央・元支配は、当時としてはやむをえない面があったとはいえ、やがて、スターリン体制という固定的なシステムを生んだ。スターリン的な〝負の歴史〟のルーツは、レーニンにあったのです」

アレクサンドル・ケレンスキー（1881〜1970）
ロシアの政治家。エスエルに属し、一九一七年の「二月革命」後、臨時政府法相、陸海相を経て首相。「一〇月革命」に際し冬宮を脱出、翌年フランスに亡命。一九四六年アメリカに移住。

ノーボスチ通信社

▶七月一六日のボルシェビキ急進派の蜂起が失敗した後、レーニンは一時、髭をそり落とし、かつらで変装してフィンランドに逃亡した。

往きて還らぬ

片倉工業提供

▲2月13日　初代片倉兼太郎(67)
実業家で、明治28年製糸業の片倉組創設。後に業界第1位企業となり、海外市場にも進出、片倉財閥を築く。

毎日新聞社

▲3月8日　F・ツェッペリン(78)
独の航空技術者で、「ツェッペリン飛行船」製作者。軍を退役後、飛行船の開発に着手し、1900年第1号船を完成。

▲3月15日　山路愛山(52)
明治から大正期に活躍した評論家、ジャーナリストで、史論・文学論などを発表。明治36年雑誌「独立評論」創刊。

▲4月14日　L・L・ザメンホフ(57)
ポーランドの医学者、言語学者。1887年エスペラント語を創案。『旧約聖書』、童話集などをエスペラント語に翻訳。

▲5月3日　伊沢修二(65)
明治から大正期の教育者。東京師範学校・東京音楽学校（初代）校長などを歴任、音楽教育に洋学を導入した。

▲7月5日　塚原渋柿園(69)
明治期の小説家で、新聞記者のかたわら歴史小説家として人気を集めた。代表作に『天草一揆』『由井正雪』など。

▲9月26日　エドガー・ドガ(83)
仏の画家。近代レアリスムの完成者の一人で、踊り子・浴女などを好んで描いた。代表作に「舞台の踊り子」など。

▲10月9日　竹本摂津大掾(81)
幕末から大正期の義太夫語りで、近代最高の名人とされる。明治36年の襲名披露興行では75日間大入りを続けた。

▲10月23日　片山東熊(63)
明治期の建築家。明治20年宮内省に勤務、以後、宮廷関係の建築に従事。代表作に東宮御所（現・迎賓館赤坂離宮）。

▶8月17日　岩村透(47)
明治から大正期の美術評論家。元東京美術学校教授。西洋美術史教育の先駆者で、国民美術協会創設にも尽力。著書に『西洋彫刻史』など。明治三三年、パリで白馬会同人として、黒田清輝（中列中）らと記念撮影。前列が岩村。

「イリュストラシオン」

▲11月17日　オーギュスト・ロダン(77)
仏の彫刻家。1877年「青銅時代」を発表、一躍有名となる。鋭い写実技法が特徴で、代表作に「考える人」など。

▲12月1日　池田蕉園(31)
明治から大正期の日本画家で、上村松園と並ぶ閨秀美人画家と言われた。文展9回入賞。「こぞのけふ」など。写真左。

▲12月23日　青山胤通(58)
明治から大正期の医学者。明治20年帝大医科大初代内科学教授となる。34年同大学長に就任、医学教育改善に貢献。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第78号 9月8日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1918［大正7年］

●**特集**
戦費一〇億円、死者三五〇〇人！ ロシア革命に干渉して「シベリア出兵」／富山から全国に飛び火した 民衆蜂起「米騒動」が勃発！／宮崎県の僻村に二〇人が移住 武者小路実篤、「新しき村」建設！／反攻を期したドイツ軍も病人続出「スペイン風邪」で死者二五〇〇万人！

●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する365日…松下幸之助、「松下電気器具製作所」創業（3月7日）／北海道帝国大学発足（4月1日）／宝塚少女歌劇、東京初公演（5月26日）／「大阪朝日新聞筆禍事件」（8月25日）／東京海上ビル完成（9月20日）／独のキール軍港で水兵叛乱（11月4日）／第一次世界大戦終結（11月11日）／東大新人会結成（12月7日）

●**人物クローズアップ**
〝発明王〟豊田佐吉のファミリー経営

●**決定的瞬間**
ニコライ二世、処刑前の〝幽閉の日々〟

●**美の出会い**
児童誌「赤い鳥」を飾った清水良雄の表紙

●**女たちの肖像**…梨本宮方子の愛と流転

の人生／**勝者・敗者**…〝無敵のサッカーチーム〟御影師範／**証言・あの日この日**…和辻哲郎、井植歳男／**「現場」を歩く**…堂島浜、わが国初の「公設市場」／**20世紀博物館**…那須オルゴール美術館（栃木）／**外から見たNIPPON**…登山家・ウェストンと上高地の〝モラル〟

●**ベストセラー**…森鷗外『高瀬舟』／**スターと名場面**…衣笠貞之助の女形「金色夜叉」／**モノ語り'18**…「キューピー人形」

ミニ事典

1917年のキーワード

西原借款
寺内正毅内閣が実業家・西原亀三を通じ北京軍閥・段祺瑞政権に供与した八口一億四五〇〇万円の借款。日本興業銀行・朝鮮銀行・台湾銀行三行を借款団として組織、一月二〇日に中国・交通銀行に五〇〇〇万円を貸し付けたのを初めとする。日中関係確立を強くのぞむ日本は、段政権への資金援助で、その実現をめざした。しかし段の失権で挫折、資金も第一回分をのぞき回収することができなかった。

船成金
大戦景気で輩出した、船の投機による成金。船のチャーター、買い占めで巨利を得た内田信也が代表的な存在。大正四年、所有汽船一隻で船会社・内田汽船を作り、五年には六〇割配当の途方もない記録を達成。六年二月には内田商事を新設、欧米・アジア各地に支店網を広げた。所有資金は船価で一億円。須磨に五〇〇〇坪の土地を得、「須磨御殿」を建て、連日大宴会を催した。

▲30代の若さで一躍実業家の仲間入りをした内田が作った須磨御殿。大正11年には高額で売却。

日本山妙法寺
藤井日達が開創した、日蓮宗系の一派。信徒は南方仏教の黄衣を着用。二月八日、藤井が皇居前で七日間の衆生教化の唱題行を修めたことを開教とする。中国の遼陽に最初の日本山妙法寺を建立、日本では大正一三年、静岡・田子ノ浦に初めて寺を持った。藤井は開教後、中国、インドなどアジア各地で精力的に布教活動を行い、第二次大戦後は反戦平和運動の国際的指導者として活躍した。

中廊下型住宅
家の内部に廊下を配置して、居住者の動線の合理化をはかった間取り。明治末期に誕生し、大正・昭和前期に都市住宅として普及。二月一〇日、住宅改良会主催の住宅競技が行われ、中廊下型住宅が入選作を独占。南向きなど条件のよい位置に居間をおく、中廊下をはさんで台所・茶の間を配置、応接間を玄関脇に設置して公私を分かつ、ほかの部屋を通らずに便所に行けるなどを特徴とした。

『貧乏物語』
社会経済学者・河上肇の代表作のひとつ。啓蒙的経済評論。前年から「大阪朝日新聞」に「貧乏物語片」と題して連載、この年三月一日、弘文堂書房から出版された。三部からなり、大戦景気の裏側で広がる貧困の現状・構造を指摘、その対策を説いた。三〇版を重ねる人気を得たが、後年、河上はマルクス主義的立場から不満を持ち、絶版を指示した。

火災専用電話
警察消防部、消防署、消防出張所が、公衆電話が告げる火災報知をすばやく受けられるようにした専用電話。木造家屋の多い日本では、出火の知らせの迅速さが消防の死命を制するとの認識から、前年来、消防機関と逓信省が協議、四月一日、東京市内でスタートした。公衆電話で「火事！」と言えば、即座に交換局が消防署につないだ。翌年、有料だった公衆電話が火災通報に限り無料に。

▲火災専用電話は出火を最も早く消防署が知ることを目的に、4月1日スタート。消防部の受信室。

護送船団方式
数十隻の商船を、駆逐艦に守らせながら一団となって航行させる方式。ロイド・ジョージ英国首相が四月に海軍に特権発動、五月一〇日、第一団が大西洋を横断した。二月から再開されたドイツの無制限潜水艦作戦による、イギリス商船の被害は甚大だったが、この護送船団方式スタート後、商船の損失率は二五パーセントから一パーセントにまで低下した。

臨時外交調査委員会
寺内内閣が、外交問題に関する国論の統一を名目に組織した、天皇直属の外交審議機関。六月六日、寺内を総裁に設立。外・内・陸・海の各閣僚、枢密院から牧野伸顕ら三人、政党から原敬・犬養毅が委員として参加。憲政会総裁・加藤高明は拒否した。「超然内閣」の政治基盤安定がねらいだったが、政党が軍事の政策決定に介入する機会ともなる。「シベリア出兵」問題、パリ講和会議、ワシントン会議などに力を発揮した。

日本光学工業
測距儀・潜望鏡など高級光学兵器の研究と生産のため、海軍の要請を受けて作られた会社。七月二五日、三菱合資会社社長・岩崎小弥太が東京計器製作所、岩城硝子製造所を買収して設立した。日本はドイツのUボートの活躍で潜水艦の国産化に乗り出したが、その目となる潜望鏡が未開発だった。海軍は双眼鏡と望遠鏡の独占企業・藤井レンズ製造所にも働きかけ、翌年、合併・吸収した。

暴利取締令
大戦景気にともなって生じた物価騰貴、特に米価の騰貴を抑制するため、暴利を目的とする売買の取締りを定めた法令。九月一日、寺内内閣が農商務省令として公布。米穀のほか鉄、石炭、綿糸布、紙、染料、薬品類の買い占め、売りおしみを禁じ、違反者には戒告または三ヵ月以下の懲役または一〇〇円以下の罰金を科した。日中戦争開始直後の昭和一二年に改正強化された。

チェカ
ロシアのソビエト政権が反政府破壊活動を鎮圧するため、一二月二〇日に設置した人民委員会議（内閣）直属の機関。反革命・サボタージュおよび投機取締り全ロシア非常委員会の略。初代議長・ジェルジンスキー。レーニンの命令を受け、武装叛乱を起こした旧軍人、資本家・地主らの反革命派、テロリストらを容赦なく次々に粛清・抹殺した。

ノーボスチ通信社

▶政治警察KGBの前身にあたる、チェカの初代議長・ジェルジンスキー。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1917

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井美雄 ピョートル・アドルフビッチ・オトゥーブ 楠田守 近藤千浪 佐藤忠男 杉山芳之助 但馬憲 田代真 永井永光 中村康三 中村房吉 御園京平 朝日新聞社 「イリュストラシオン」 Ullstein ノーボスチ通信社 平凡社 Popperfoto 毎日新聞社 マツダ映画社 Mary Evans Picture Library ユニフォト・プレス ROGER VIOLLET 石川島播磨重工業 片倉工業 松竹 テイジン 三越 イトーキ資料館 大倉文化財団 大宅壮一文庫 岡本太郎記念財団 呉市企画部海事博物館推進室 国際理容美容専門学校 国立国会図書館 古文書複製社 三康図書館 島津創業記念資料館 セイコー時計資料館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 日仏会館図書室 日本近代文学館 日本工業倶楽部 日本将棋連盟 鮒松歴史資料館 三笠保存会 横浜人形の家 理化学研究所

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1917
●「目玉の松ちゃん」人気絶頂！ 9月15日号
第2巻第34号 通巻77号
平成10年9月15日発行（毎週火曜日発行）
平成10年7月31日第三種郵便物認可
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一
発行所 株式会社 発売所 講談社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1295（販売）03-5395-3604
定価560円 本体533円

雑誌 23713-9/15 Ⓛ-2001/1/1
T1123713090560

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社